第1章

幼児の生活

松本　留奈（1・2・5節・年齢別の特徴　0歳後半児～2歳児）
高岡　純子（3・4節）
荒牧美佐子（6節）
朝永　昌孝（年齢別の特徴　3歳児～6歳児）

第1節 幼児の生活リズム

5年前にみられた幼児の早寝早起き傾向がさらに強まっている。また、幼稚園児、保育園児ともに家を出る時刻は早まる一方、家に帰る時刻は遅くなっており、園児が家で過ごす時間が短くなってきているようだ。

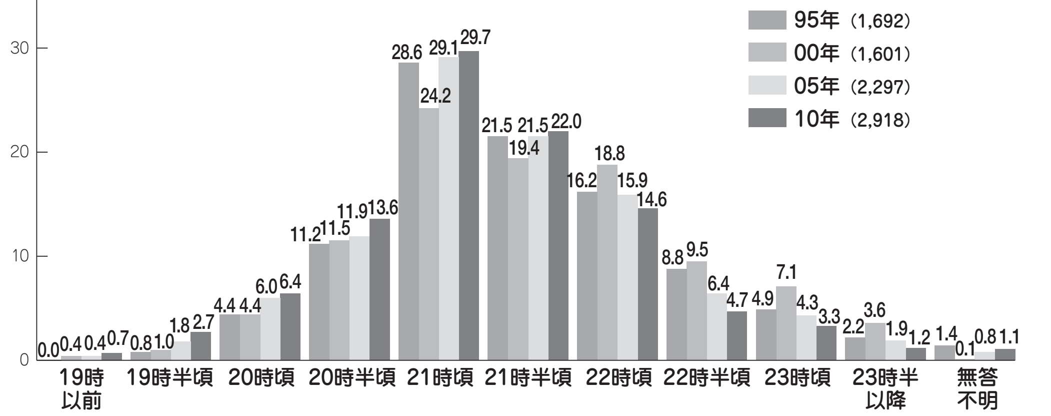
この節では「時間」に関するデータを中心に、睡眠や食事などの基本的な幼児の生活リズムをみていきたい。

就寝時刻・起床時刻

はじめに、就寝時刻をみてみよう（**図1－1－1**）。10年調査では、「21時頃」と「21時半頃」に就寝する比率を合計すると51.7％で、１歳６か月～６歳11か月の幼児の約半数はこの時間帯に寝ているといえる。21時台がピークとなる全体傾向は15年間で変わらないが、この図からわかるように、それぞれの時間帯の数値には、小さいながらも変動がみられる。10年前の00年には、95年に「21時頃」をピークとしていた鋭い分布の山が崩れ、「22時頃」「22時半頃」「23時頃」「23時半以降」が少しずつ増加し、幼児の生活が夜型化している傾向がみられた。しかしその傾向は５年前の05年に収まり、幼児の生活は早寝傾向に転じたことがわかった。そして、今回の10年調査をみると、引き続き早寝傾向が進行しているようだ。比較的遅いと考えられる「22時頃」以降に寝る幼児の比率を合計してみると（**図1－1－2**）、95年32.1％、00年39.0％、05年28.5％、10年23.8％と、10年前からは15.2ポイント、５年前からでも4.7ポイント減少しており、この10年間で幼児は早寝になってきたことがわかる。

次に、起床時刻をみてみよう（**図1－1－3**）。10年調査では、74.3％が「６時半頃」から「７時半頃」に起床している。起床時刻は

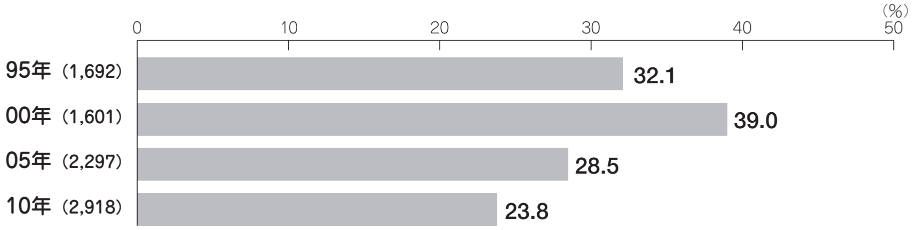
図1－1－1　平日の就寝時刻（経年比較）



注）（　）内はサンプル数。

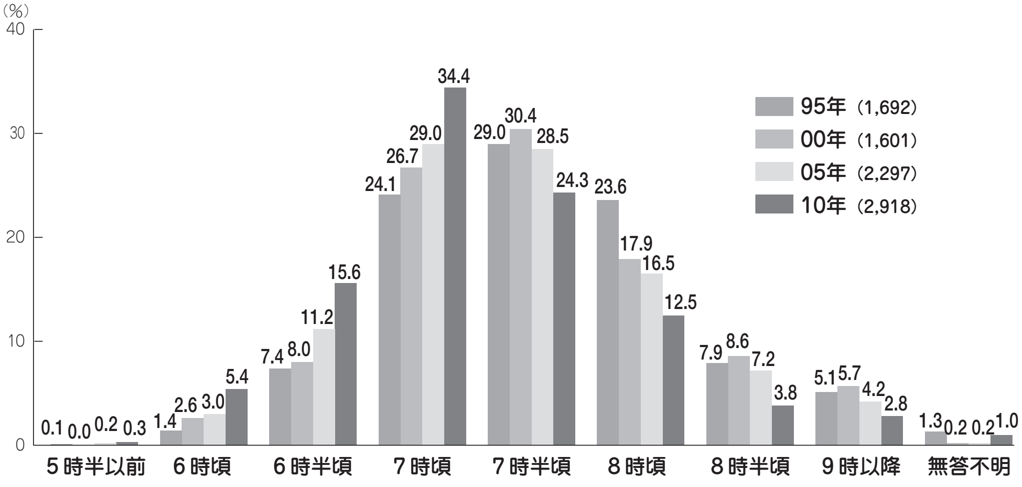
就寝時刻に比べて全体のばらつきは少ないが、５年前と比べると、「７時頃」以前の時間帯が増加し、「７時半頃」以降の時間帯が減少している。そこで比較的早いと考えられる「７時頃」以前に起きる幼児の比率を合計してみると（**図１－１－４**）、95年33.0%、00年37.3%、05年43.4%、10年55.7%と15年前からは22.7ポイント、５年前からでも12.3ポイント増加している。この15年間で幼児は早起きになっており、とくにこの５年間でその傾向がますます強まっていることがわかる。

図１－１－２　「22時頃」以降に就寝する幼児（経年比較）



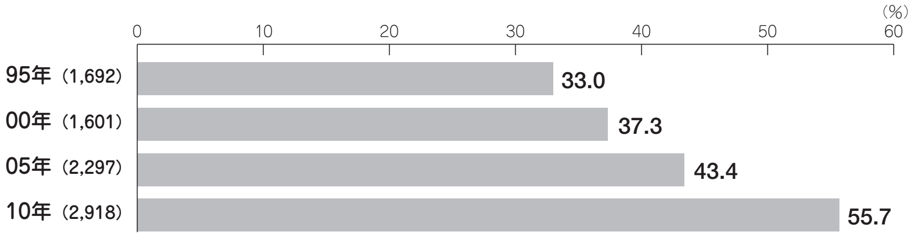
注１）「22時頃＋22時半頃＋23時頃＋23時半以降」の%。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－１－３　平日の起床時刻（経年比較）



注）（　）内はサンプル数。

図１－１－４　「７時頃」以前に起床する幼児（経年比較）



注１）「５時半以前＋６時頃＋６時半頃＋７時頃」の%。
注２）（　）内はサンプル数。

夜間睡眠時間

幼児の早寝早起き傾向が認められたが、夜間睡眠時間はどのように変化しているのだろうか。平均就寝時刻および平均起床時刻から平均夜間睡眠時間を算出したのが次の図である（**図１－１－５**）。15年間でみると、10年が就寝時刻、起床時刻ともにもっとも早いが、平均夜間睡眠時間は７分以内の差に収まっており目立った変化はみられない。幼児は早く寝るようになったと同時に起きるのも早くなっているため、夜間睡眠時間は変わらないといえるだろう。

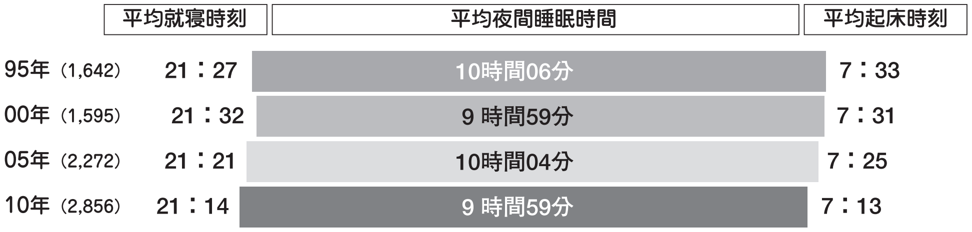
昼寝時間

幼児の昼寝時間についてみてみよう。10年調査で、１歳６か月～６歳11か月の幼児の約半数が昼寝はしないことがわかった（**図１－１－６**）。子どもの年齢別でみると年齢があがるにつれて昼寝をしなくなっており、４歳児で半数以上が、６歳児で９割近くが「昼寝はしない」と回答している（**表１－１－１**）。平均昼寝時間を子どもの就園状況別にみると、保育園児、未就園児が１時間以上であるのに対し、幼稚園児は10分と短い（**表１－１－２**）。昼寝時間については、10年調査で新たに追加した項目のため経年で比較することはできないが、子どもの年齢や就園状況によって差があると思われるので、引き続き次の項でみていきたい。

１日の合計睡眠時間

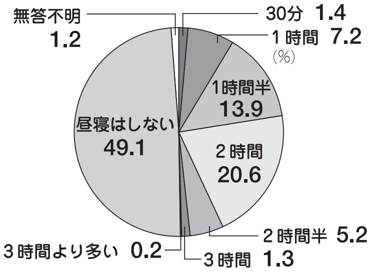
子どもの年齢別・就園状況別に、平均就寝時刻、平均起床時刻、平均夜間睡眠時間、平均昼寝時間と１日の平均合計睡眠時間をみてみよう（**図１－１－７**）。平均合計睡眠時間は、平均夜間睡眠時間と平均昼寝時間を足して算出した。いずれの年齢においても平均夜間睡

図１－１－５　就寝・起床の平均時刻と平均夜間睡眠時間（経年比較）



注１）95年、00年、05年調査は起床時刻、就寝時刻のいずれか、10年調査は起床時刻、就寝時刻、昼寝時間のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は分析から除外している。
注２）就寝の平均時刻は、「19時以前」を19時、「19時半頃」を19時30分、「23時半以降」を23時30分のように置き換えて算出した。
注３）起床の平均時刻は、「５時半以前」を５時30分、「６時頃」を６時、「９時以降」を９時のように置き換えて算出した。
注４）平均夜間睡眠時間は、平均就寝時刻と平均起床時刻から算出した。
注５）（　）内はサンプル数。

図１－１－６　昼寝時間（10年）



注）サンプル数は2,918人。

表１－１－１　「昼寝はしない」比率（子どもの年齢別 10年）

（%）

１歳後半児	（270）	1.4
２歳児	（492）	11.5
３歳児	（547）	39.1
４歳児	（579）	57.7
５歳児	（508）	74.5
６歳児	（522）	87.4

注１）１歳後半児は１歳６か月～１歳11か月の幼児。
注２）（　）内はサンプル数。

眠時間は未就園児、幼稚園児が10時間以上であるのに対し、保育園児は９時間台にとどまっている。一方で、いずれの年齢においても平均昼寝時間は、保育園児が未就園児、幼稚園児より長いため、１歳後半児～３歳児の平均合計睡眠時間に、就園状況による目立った差はみられない。４歳、５歳の幼稚園児は、平均就寝時刻が20時台と早寝の傾向が強いものの平均昼寝時間が短くなったため、平均合計睡眠時間は保育園児より短くなっている。また、６歳児になると就学を見据えたせいか、保育園児の昼寝が減少し、平均合計睡眠時間に就園状況による差はほとんどみられなくなる。

表１−１−２　平均昼寝時間（就園状況別 10年）

全体	(2,856)	53分
幼稚園児	(1,139)	10分
保育園児	(658)	１時間33分
未就園児	(928)	１時間14分

注１）起床時刻、就寝時刻、昼寝時間のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は分析から除外している。
注２）平均昼寝時間は「３時間より多い」を３時間30分、「昼寝はしない」を０分のように置き換えて算出した。
注３）（　）内はサンプル数。

図１−１−７　就寝・起床の平均時刻と１日の平均合計睡眠時間（子どもの年齢別・就園状況別 10年）

		平均就寝時刻	平均夜間睡眠時間	平均起床時刻	平均昼寝時間	１日の平均合計睡眠時間
１歳後半児	未就園児 (187)	21：26	10時間06分	7：32	１時間47分	11時間53分
	保育園児 (56)	21：07	９時間42分	6：49	２時間06分	11時間48分
２歳児	未就園児 (341)	21：25	10時間05分	7：30	１時間33分	11時間38分
	保育園児 (100)	21：30	９時間27分	6：57	２時間05分	11時間32分
３歳児	未就園児 (319)	21：12	10時間18分	7：30	45分	11時間03分
	保育園児 (134)	21：39	９時間21分	7：00	１時間51分	11時間12分
４歳児	幼稚園児 (323)	20：52	10時間16分	7：08	19分	10時間35分
	保育園児 (147)	21：42	９時間19分	7：01	１時間37分	10時間56分
５歳児	幼稚園児 (390)	20：58	10時間10分	7：08	９分	10時間19分
	保育園児 (99)	21：36	９時間22分	6：58	１時間22分	10時間44分
６歳児	幼稚園児 (390)	21：04	10時間02分	7：06	2分	10時間04分
	保育園児 (122)	21：33	９時間24分	6：57	36分	10時間00分

注１）１歳後半児は１歳６か月～１歳11か月の幼児。
注２）起床時刻、就寝時刻、昼寝時間のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は分析から除外している。
注３）就寝の平均時刻は、「19時以前」を19時、「19時半頃」を19時30分、「23時半以降」を23時30分のように置き換えて算出した。
注４）起床の平均時刻は、「５時半以前」を５時30分、「６時頃」を６時、「９時以降」を９時のように置き換えて算出した。
注５）平均夜間睡眠時間は、平均就寝時刻と平均起床時刻から算出した。
注６）平均昼寝時間は「３時間より多い」を３時間30分、「昼寝はしない」を０分のように置き換えて算出した。
注７）平均合計睡眠時間は、平均夜間睡眠時間と平均昼寝時間から算出した。
注８）（　）内はサンプル数。

食事をする時刻

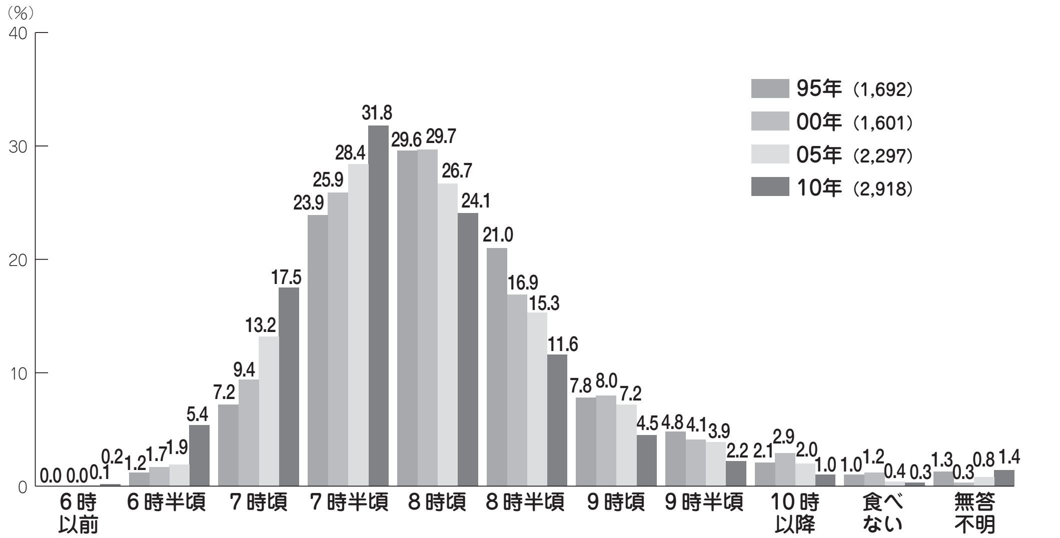
朝食の時刻を15年間で比べたのが**図１－１－８**である。95年、00年はピークの山が「８時頃」であったが、05年に「７時半頃」に前倒しになり、10年では「７時半頃」がさらに鋭い山となっている。このことから、15年間で幼児の朝食をとる時刻が早まっており、10年には54.9%が「７時半頃」までに朝食をとることがわかった。朝食の時刻が前倒しになった背景には、幼児の早起き傾向があるだろう。

次に、夕食の時刻を15年間で比べたのが**図１－１－９**である。夕食の時刻は15年間変わらず「18時頃」から「19時頃」に集中しており、目立った変化はみられない。これをみる限り早寝傾向が、夕食の時刻と関係している様子はみられない。

それでは、10年調査の朝食の時刻を低年齢（１歳６か月～３歳11か月）、高年齢（４歳０か月～６歳11か月）の年齢区分ごとに、就園状況別でみてみよう（**図１－１－10**）。低年齢に、幼稚園児はごくわずかであるため、未就園児と保育園児で比較を、高年齢に、未就園児はごくわずかであるため、幼稚園児と保育園児で比較を行う。低年齢では「７時半頃」までに朝食をとると回答した保育園児が74.5%に対し、未就園児は30.1%と、保育園児のほうが朝食の時刻が早かった。高年齢でも、「７時半頃」までに朝食をとると回答した保育園児が76.6%に対し、幼稚園児は64.6%と、保育園児のほうが朝食の時刻が早かった。さらに幼稚園児を詳しくみると、「７時半頃」に41.6%が集中しており、幼稚園は保育園と比べると園児の登園時刻が集中しているため、朝食の時刻にばらつきが少ないと考えられる。

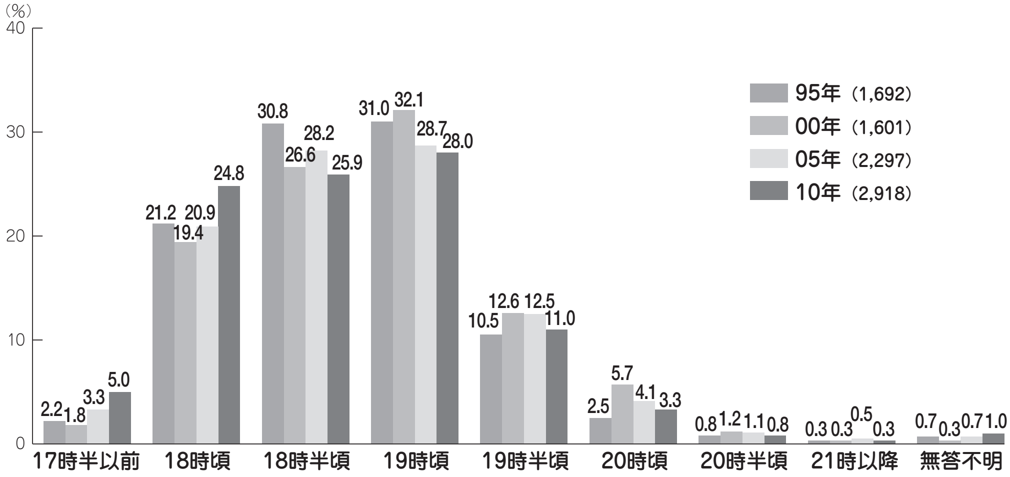
次に、10年調査の夕食の時刻を子どもの年齢区分ごとに就園状況別でみてみよう（**図１－１－11**）。低年齢の未就園児、高年齢の幼稚園児ともに「18時頃」がピークで半数以上が18時台に夕食をとっているのに対し、低年齢、高年齢ともに保育園児は「19時頃」がピークで半数以上が19時台に夕食をとっている。以上のことから、保育園児のほうが未就園児や幼稚園児に比べて、朝食が早く、夕食は遅い傾向にあるといえるだろう。

図１－１－８　朝食の時刻（経年比較）



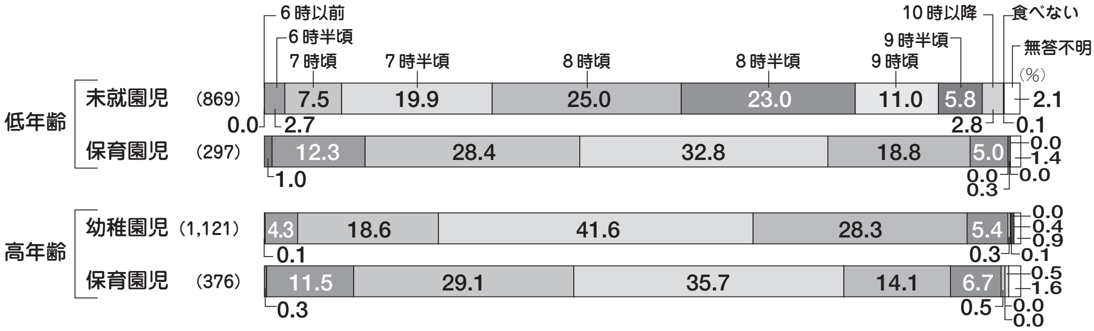
注）（　）内はサンプル数。

図１－１－９　夕食の時刻（経年比較）



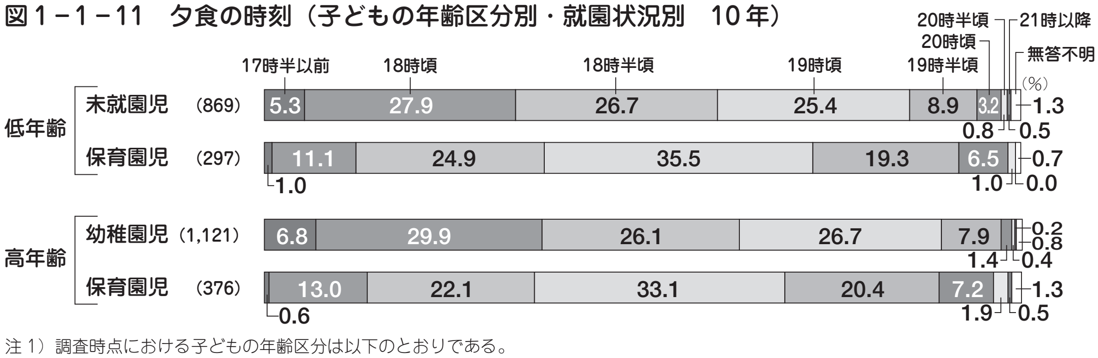
注）（　）内はサンプル数。

図１－１－10　朝食の時刻（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注１）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：１歳６か月～３歳11か月の幼児。
　　高年齢：４歳０か月～６歳11か月の幼児。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－１－11　夕食の時刻（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注１）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：１歳６か月～３歳11か月の幼児。
　　高年齢：４歳０か月～６歳11か月の幼児。
注２）（　）内はサンプル数。

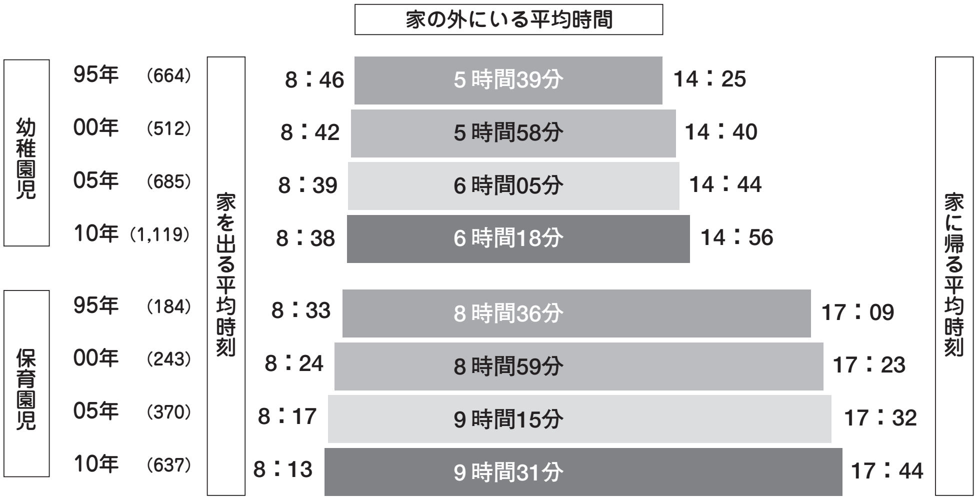
家を出る時刻・家に帰る時刻

次に、家を出る時刻・家に帰る時刻から幼稚園や保育園に通う幼児の変化をとらえてみたい。**図１−１−12** は、就園状況別の家を出る平均時刻、家に帰る平均時刻、および両者から算出した家の外にいる平均時間である。10年調査では、幼稚園児、保育園児ともに家を出る時刻は５年前とほとんど変わらないが、家に帰る時刻が遅くなっているため、家の外にいる時間が長くなっていることがわかる。15年間でみると、幼稚園児は39分、保育園児は55分長くなっており、家の外で過ごす時間が年々増えている。

さらに高年齢（４歳０か月〜６歳11か月）の幼児を対象に、就園状況別に母親の就業状況をみてみよう（**図１−１−13**）。10年調査では、幼稚園児の場合、母親の67.3％が専業主婦である。しかし、専業主婦の比率は５年前と比べて6.4ポイント減少しており、一方でパートタイムが18.4％と５年前に比べて5.2ポイント増加している。10年の保育園児の場合、母親の49.1％が常勤者であり、常勤者の比率は５年前と比べて8.7ポイント増加しているが、その一方で専業主婦の比率は５年前と比べて4.9ポイント減少している。このことから、幼稚園児、保育園児どちらの母親においても専業主婦の比率が減少し、就業している比率が増加していることがわかる。

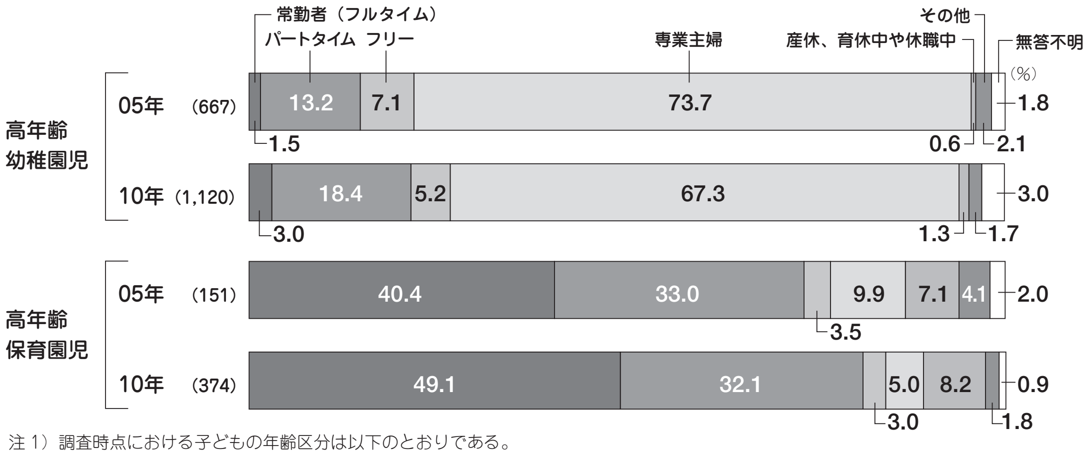
さらに高年齢の幼児について、母親の就業状況別に家を出る平均時刻、家に帰る平均時刻、家の外にいる平均時間をみたのが**図１−１−14** である。幼稚園児、保育園児ともに母親の就業状況にかかわらず、５年前と比べて家の外にいる時間が長くなっている。とくに、幼稚園児で母親が専業主婦の場合は12分、パートタイムの場合は４分、保育園児で母親がパートタイムの場合は21分、常勤者の場合は５分長くなっている。近年、幼稚園や保育園において、保護者のニーズに応じて保育時間を柔軟化している影響が表れた結果といえるだろう。

図１−１−12　家を出る・家に帰る平均時刻と家の外にいる平均時間（就園状況別　経年比較）



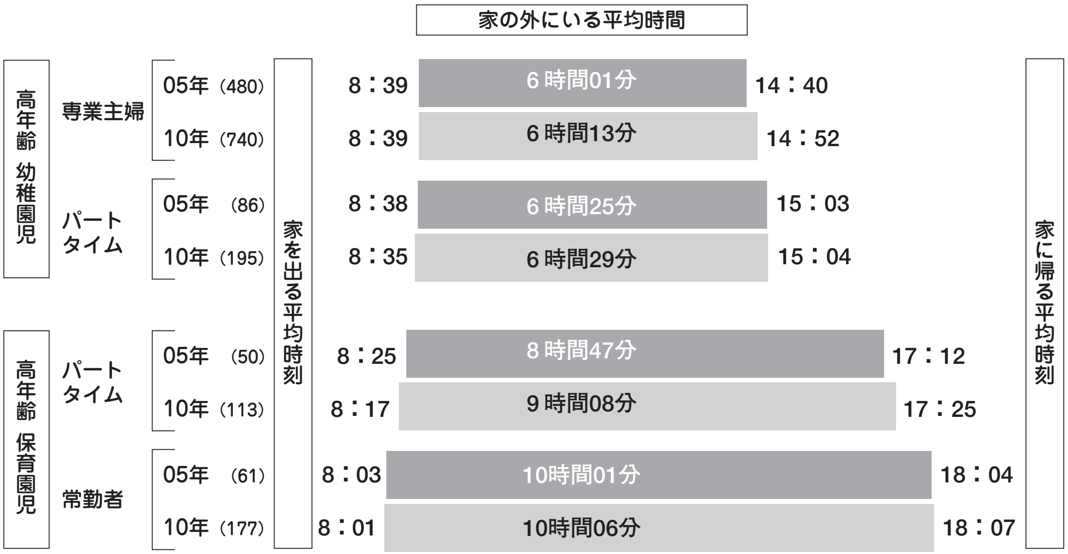
注１）子どもを園に通わせている人のみ回答。
注２）家を出る時刻、家に帰る時刻のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。
注３）家を出る平均時刻は、「７時半以前」を７時30分、「８時頃」を８時のように置き換えて算出した。95年調査は、「10時以降」を、00年、05年調査は、「10時半以降」を 10時30分に、10年調査は、「10時以降」を10時に置き換えて算出した。
注４）家に帰る平均時刻は、「13 時半頃」を13時30分のように置き換えて算出した。95年、00年、05年調査は、「12時以前」を12時に、10年調査は、「13時以前」を13時に、95年調査は、「18時以降」を18時30分に、00年、05年、10年調査は「19時以降」を19時に置き換えて算出した。
注５）家の外にいる平均時間は、家を出る平均時刻と家に帰る平均時刻から算出した。
注6）（　）内はサンプル数。

図1－1－13 母親の就業状況（就園状況別（高年齢） 経年比較）



注1）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注2）（ ）内はサンプル数。

図1－1－14 家を出る・家に帰る平均時刻と家の外にいる平均時間（就園状況別・母親の就業状況別（高年齢） 経年比較）



注1）子どもを園に通わせている人のみ回答。
注2）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注3）家を出る時刻、家に帰る時刻のいずれかの質問に対して無答不明のあった人は、分析から除外している。
注4）家を出る平均時刻は、「7時半以前」を7時30分、「8時頃」を8時のように置き換えて算出した。05年調査は、「10時半以降」を10時30分に、10年調査は、「10時以降」を10時に置き換えて算出した。
注5）家に帰る平均時刻は、「13時半頃」を13時30分に、「19時以降」を19時のように置き換えて算出した。05年調査は、「12時以前」を12時に、10年調査は、「13時以前」を13時に置き換えて算出した。
注6）家の外にいる平均時間は、家を出る平均時刻と家に帰る平均時刻から算出した。
注7）（ ）内はサンプル数。

第2節 習い事

習い事をしている幼児の比率は全体の47.4％と、5年前と比べて約10ポイント減少した。いずれの年齢においても減少しているが、とくに2歳児、3歳児で減少した比率が大きい。習い事の種類でもっとも減少したのは「英会話などの語学の教室」であった。

習い事をしている比率は5年前より減少

1歳6か月〜6歳11か月の幼児が、習い事をしている比率は、00年49.4％、05年57.5％、10年47.4％となっている。10年調査では、5年前より10.1ポイント減少し、10年前以下の水準となった（**表1－2－1**）。また子どもの年齢別でみると、年齢が上がるにつれて習い事をしている比率が増加する傾向は5年前と変わらないが、いずれの年齢でも習い事をしている比率は減少している。05年は、とくに2歳児で 習い事をしている比率が00年と比べて10.5ポイント増加したり、3歳児では過半数を超えたりと、習い事を始める時期の低年齢化が指摘されたが、05年から10年の5年間をみると2歳児、3歳児ともに大きく減少しており、10年調査では、10年前の00年調査以下の水準となっている。

習っている比率がもっとも減少した習い事は「英会話などの語学の教室」

次に、幼児が習っている習い事の種類をみてみよう（**図1－2－1**）。10年調査では、幼稚園・保育園で有料で習っているものと幼稚園・保育園以外で有料で習っているものとに分けてたずねたため、少なくともどちらかで習っていると答えた比率を算出し、00年調査、05年調査の結果と比較する。05年から10年までの5年間で「楽器」以外の習い事はすべて減少している。10年調査で比率がもっとも高かったのは「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」16.1％、次いで「スイミング」15.4％で、上位2つは05年調査と同じ習い事であった。00年5.0％から05年14.2％まで9.2ポイント増加し、05年では第3位であった「英会話などの語学の教室」は、10年では9.1％と05年より5.1ポイント減少し、「体操」に次いで第4位となった。

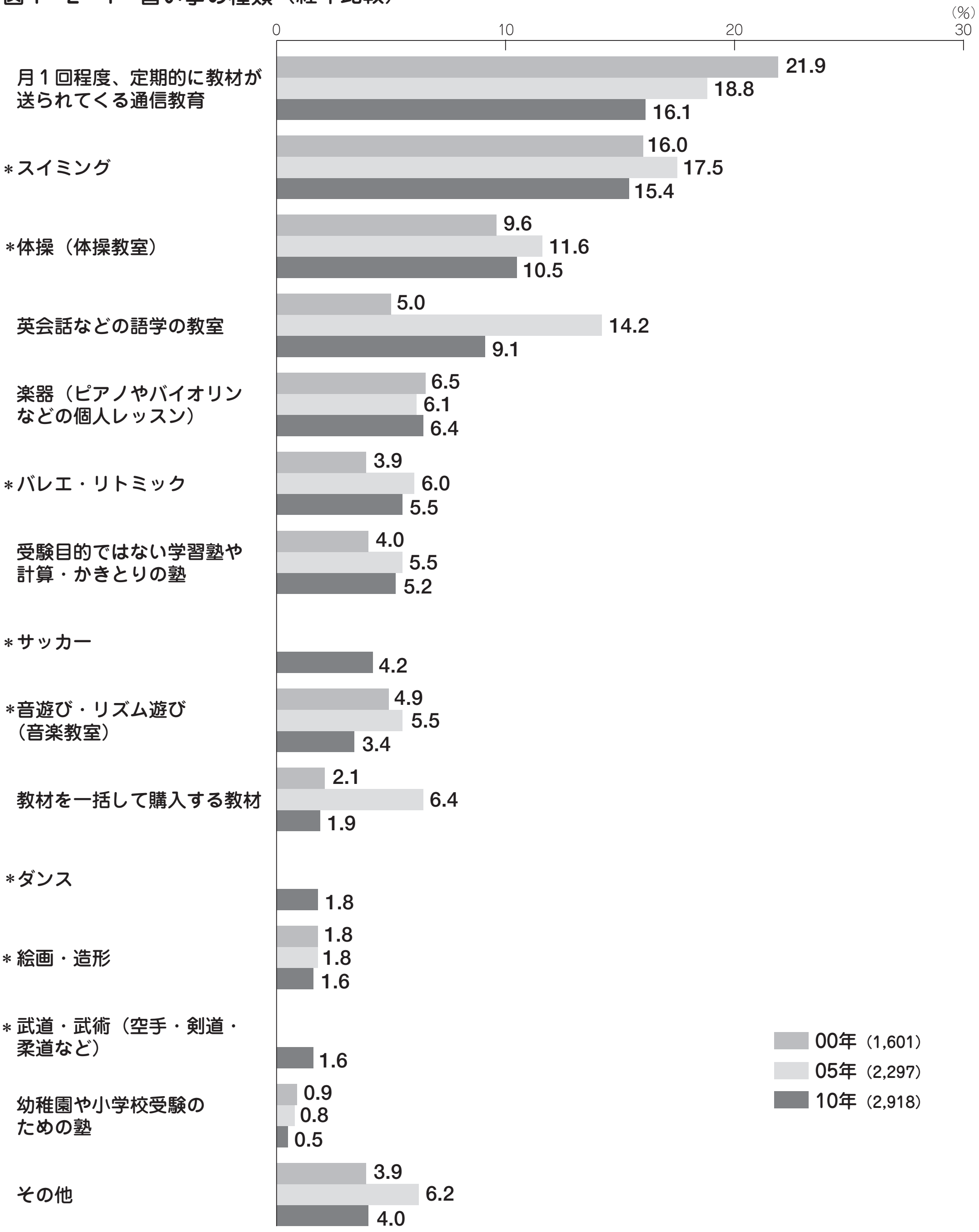
表1－2－1　習い事をしているか（子どもの年齢別　経年比較）

（％）

	00年	05年	10年
全　体（00年1,601、05年2,297、10年2,918）	49.4	57.5	47.4
1歳後半児（00年175、05年303、10年270）	23.3	25.1	17.1
2歳児（00年481、05年740、10年492）	26.8	37.3	24.6
3歳児（00年251、05年340、10年547）	42.0	50.9	37.7
4歳児（00年226、05年312、10年579）	47.2	54.9	45.8
5歳児（00年230、05年326、10年508）	68.6	75.1	67.6
6歳児（00年238、05年276、10年522）	75.7	85.5	76.7

注1）習い事を「している」の％。
注2）1歳後半児は、1歳6か月〜1歳11か月の幼児。
注3）（　）内はサンプル数。

図１−２−１　習い事の種類（経年比較）



注１）複数回答。
注２）現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている。
注３）10年調査は、「幼稚園・保育園で有料で習っているもの（保育時間中に習っているものは除く）」と「幼稚園・保育園以外で習っているもの」に分けて、習い事の種類をたずねた。そのため、ここでは少なくともどちらか一方で、習っていると回答した比率を示した。なお、00年調査、05年調査は、どこで習っているかを分けてたずねていない。
注４）＊は10年調査で名称を変更した項目、および10年調査のみの項目。05年調査までは「スイミングスクール」→10年調査は「スイミング」に変更、同様に「スポーツクラブ・体操教室」→「体操（体操教室）」、「絵画の教室」→「絵画・造形」、「幼児向けの音楽教室」→「音遊び・リズム遊び（音楽教室）」、「バレエ・リトミック」→「バレエ」「リトミック」（集計は経年比較するために合算）。「サッカー」「ダンス」「武道・武術（空手・剣道・柔道など）」は10年調査のみの項目。
注５）（　）内はサンプル数。

年齢区分別や性別による習い事の違い

表１−２−２に、10年調査の習い事の上位５つを子どもの年齢区分別・性別にあげた。低年齢（１歳６か月〜３歳11か月）において、男子では「習い事をしていない」73.2%に対し、女子では69.0%と4.2ポイントの差があり、女子のほうが習い事をしている比率が高いことがわかった。高年齢（４歳０か月〜６歳11か月）になると、男子ではスポーツ系（「スイミング」「体操」「サッカー」）、「月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」「英会話などの語学の教室」の比率が高い。女子では、男子で高い「サッカー」のかわりに「楽器」が高くなっている。その他は、男女ともに同じ傾向で、「習い事をしていない」比率にも差はみられない。

幼稚園、保育園でもっともよく習われているのは「体操」

近年、幼稚園・保育園で保育時間外に有料で習い事を行うケースが増えてきた。そこで、10年調査では、習い事を「幼稚園・保育園で保育時間外に習っているもの」と「幼稚園・保育園以外で習っているもの」に分けてたずねた。その結果を高年齢の幼児についてみてみよう（**図１−２−２**）。幼稚園・保育園で習っている比率が幼稚園・保育園以外で習っている比率を上回った習い事は「体操」「サッカー」「絵画・造形」である。とくに、「体操」は幼稚園・保育園で習っている比率（10.6%）が、幼稚園・保育園以外で習っている比率（5.6%）を5.0ポイント上回った。しかし、習い事全体でみるとやはり幼稚園・保育園以外で習っている比率が依然として高く、幼稚

表１−２−２　習い事上位５つ（子どもの年齢区分別・性別　10年）

（%）

	男子（659）		女子（650）	
低年齢	１．月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育	9.2	１．月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育	9.3
	２．スイミング	7.3	２．バレエ・リトミック	7.7
	３．バレエ・リトミック	4.8	３．英会話などの語学の教室	6.4
	４．英会話などの語学の教室	4.2	４．音遊び・リズム遊び	5.4
	５．体操	3.7	５．スイミング	5.3
	習い事をしていない	73.2	習い事をしていない	69.0
	男子（798）		女子（811）	
高年齢	１．スイミング	26.7	１．月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育	23.2
	２．月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育	20.9	２．スイミング	19.2
	３．体操	16.8	３．楽器	16.4
	４．サッカー	13.6	４．体操	14.8
	５．英会話などの語学の教室	12.0	５．英会話などの語学の教室	12.6
	習い事をしていない	35.8	習い事をしていない	36.4

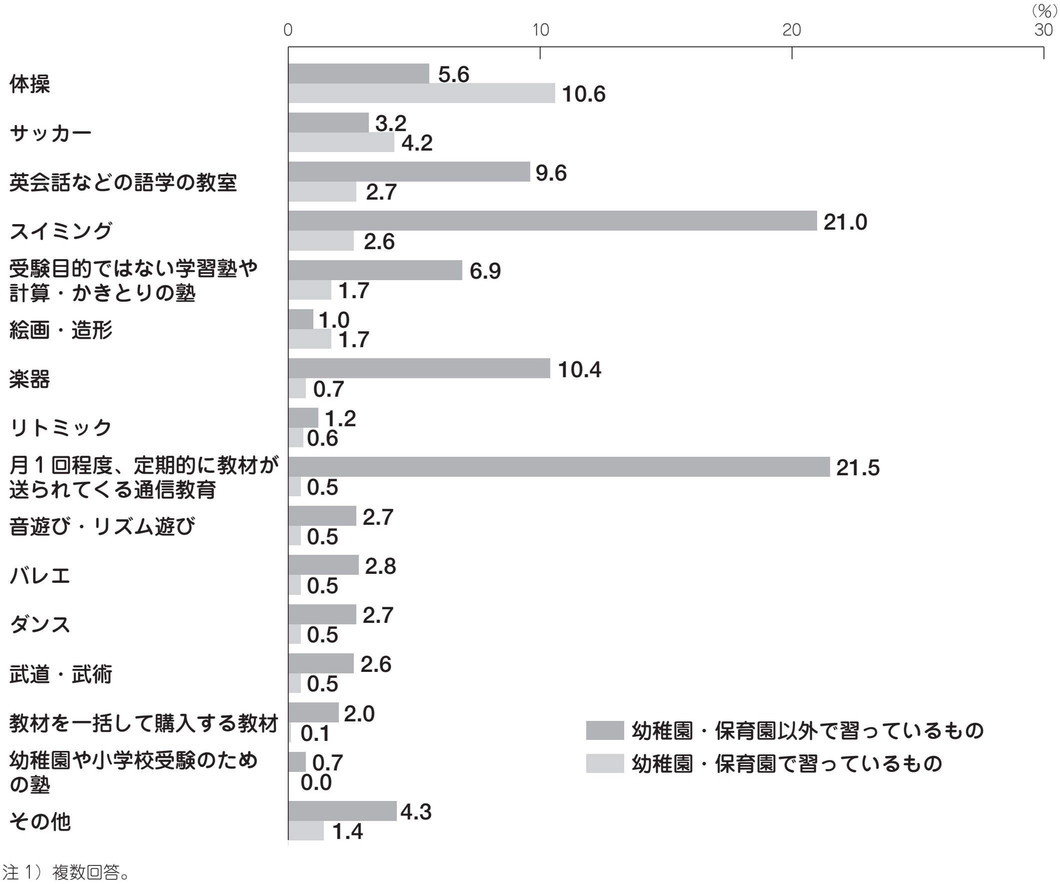
注１）複数回答。
注２）「その他」を含む16項目の中から上位５項目を選択。
注３）現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている。
注４）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：１歳６か月〜３歳 11 か月の幼児。
　　高年齢：４歳０か月〜６歳 11 か月の幼児。
注５）（　）内はサンプル数。

園・保育園で習い事をしているケースは少ないといえる。

保育園児より幼稚園児のほうが習い事率は高い

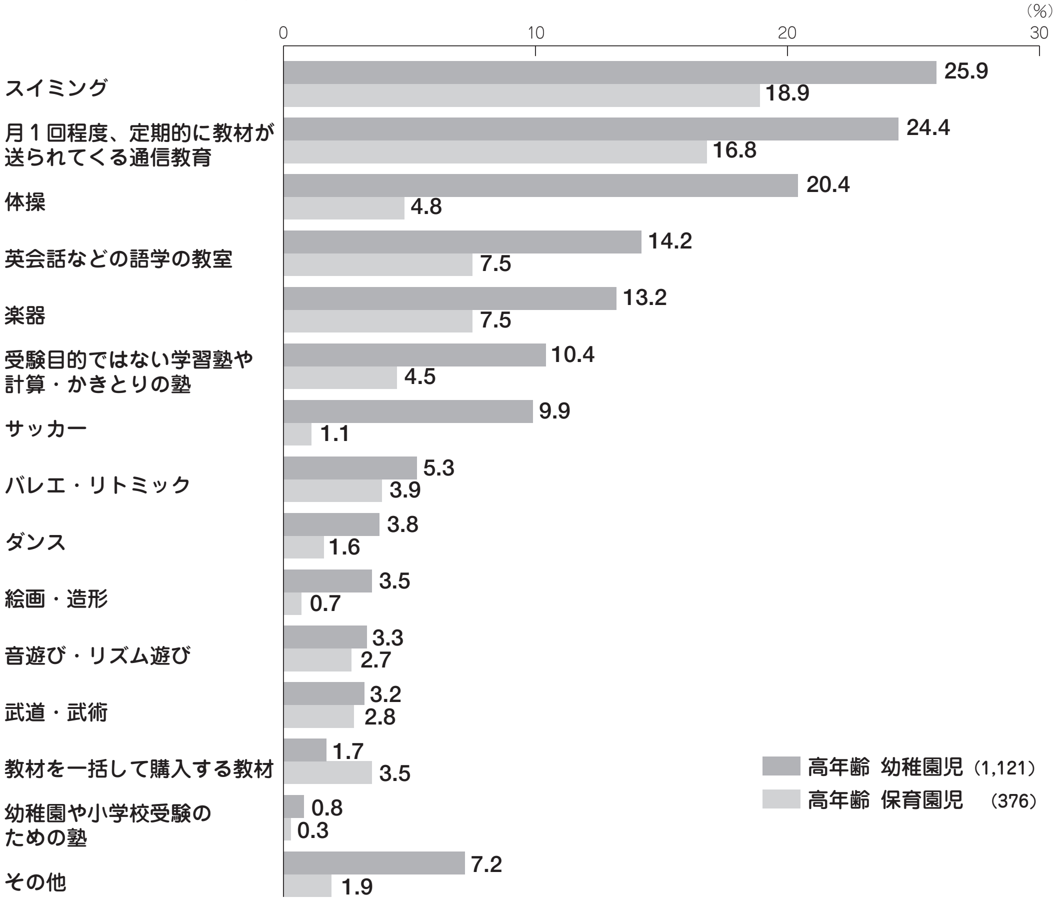
さらに高年齢（４歳０か月～６歳11か月）の幼児について、就園状況別に習い事の種類をみてみよう（**図１－２－３**）。10年調査では、幼稚園・保育園で有料で習っているものと幼稚園・保育園以外で有料で習っているものとに分けてたずねたが、ここでは少なくともどちらかで習っていると答えた比率について述べる。10年調査では、習い事を「していない」と回答した幼稚園児が28.3％であるのに対し、保育園児は52.9％と24.6ポイントも高い（図表省略）。保育園児は、在園時間が長く習い事をする時間が限られることから、幼稚園児よりも習い事をしていないと考えられる。習い事の種類をみると、「教材を一括して購入する教材」以外のすべての習い事で、保育園児より幼稚園児が習っている比率が高く、とくに「体操」「サッカー」では大きな差がみられる。この２つは前項で述べたように幼稚園・保育園でよく習われている習い事である。そこで「体操」「サッカー」を幼稚園・保育園で習っている幼児を就園状況別にみると、幼稚園児のほうが習っている比率が高いことがわかった（**図１－２－４**）。

図１－２－２　習い事の種類（幼保・幼保外別（高年齢）　10年）



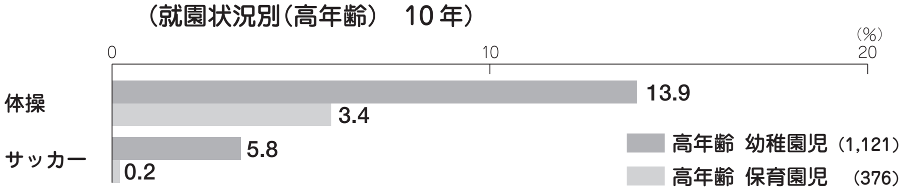
注１）複数回答。
注２）現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている。
注３）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　高年齢：４歳０か月～６歳 11 か月の幼児。
注４）サンプル数は 1,609 人。

図１－２－３　習い事の種類（就園状況別（高年齢）　10年）



注１）複数回答。
注２）現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている。
注３）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　　高年齢：４歳０か月～６歳 11 か月の幼児。
注４）（　）内はサンプル数。

図１－２－４　「体操」「サッカー」を幼稚園・保育園で習っている比率（就園状況別（高年齢）　10 年）



注１）複数回答。
注２）現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている。
注３）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　　高年齢：４歳０か月～６歳11か月の幼児。
注４）（　）内はサンプル数。

第3節 家にあるもの

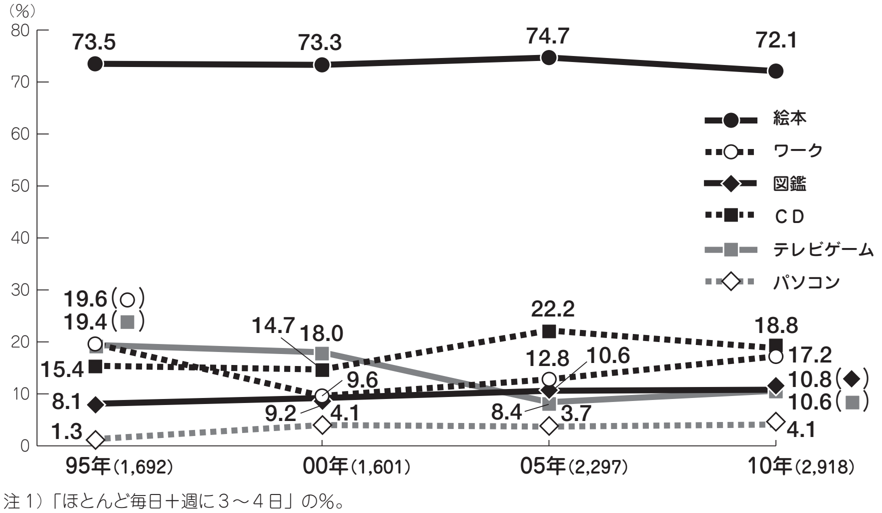
家にあるものをみると、「ワーク」を使う頻度が増える一方で、「テレビゲーム」は15年間で減少している。また「パソコン」が幼児の家に浸透しており、約9割に達する一方で、「絵本」などの古くからあるものも使われ続けている。

家にあるものを使う頻度

この節では、幼児の家にあるものと、使う頻度、一緒に使う人についての変化をみてみたい（15年間で比較できるもののみ取りあげている）。経年での変化をみると（**図１－３－１**）、「テレビゲーム」は95年19.4%、00年18.0%、05年8.4%、10年10.6%と15年前より減少しており、５年前から使う頻度が１割程度になっている（ほとんど毎日＋週に３～４日）。反対に「ワーク」は使用頻度がここ10年間で、7.6ポイント増加している（00年9.6%、05年12.8%、10年17.2%）。「絵本」は15年間で大きな変化はなく、７割程度と使用頻度は一貫して高い。

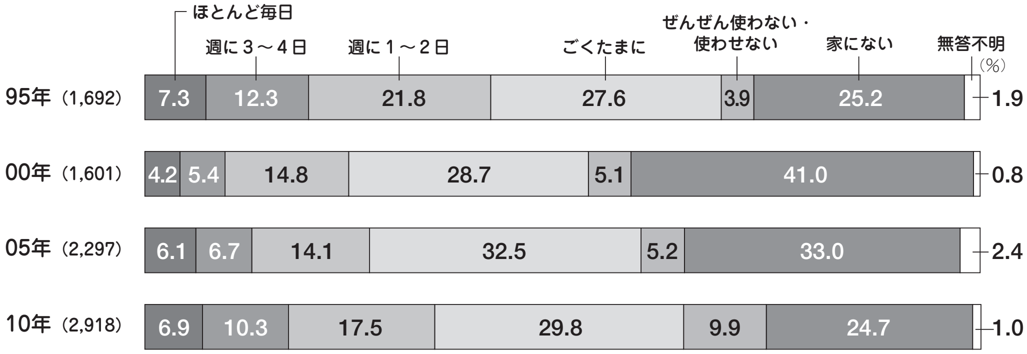
この15年間で使用頻度に変化があったものについてみたものが**図１－３－２～４**である。「ワーク」の使用頻度は、00年調査から徐々に増加している。10年調査では、「週に１～２日」を含めると、34.7%が使用している。「テレビゲーム」は、「ぜんぜん使わない・使わせない」「家にない」比率が増え、10年調査では合わせて66.6%となっている。一方、15年前と比べ使用頻度が減少し、05年と10年では、「ほとんど毎日」が５%程度である。「パソコン」についてみてみると、「家にない」比率が大きく減少し、急速に家庭に普及している一方で、「ぜんぜん使わない・使わせない」比率は増加しており、幼児のパソコン使用頻度は増えていない。

図１－３－１　家にあるものを使う頻度（経年比較）



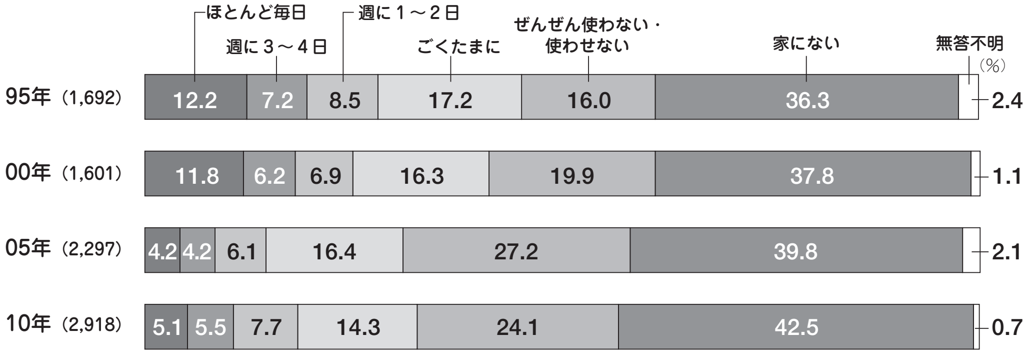
注１）「ほとんど毎日＋週に３～４日」の%。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－３－２　ワークを使う頻度（経年比較）



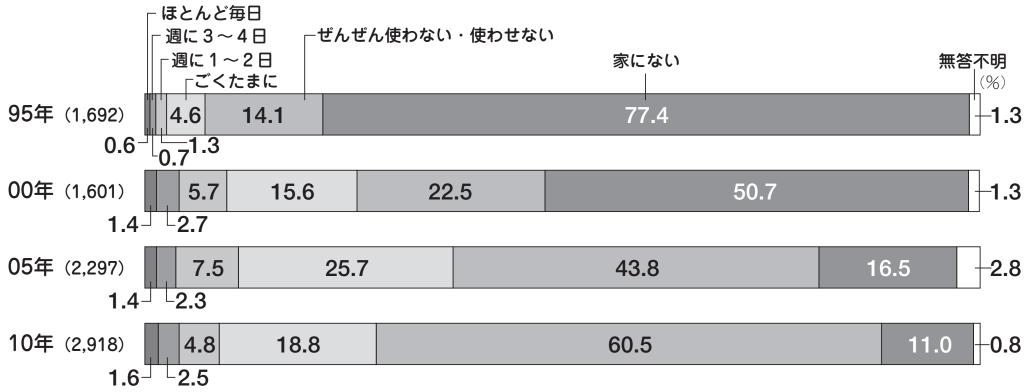
注１）「ぜんぜん使わない・使わせない」は、95年、00年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない」を、05年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない・見せない」を合計した数値となっている。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－３－３　テレビゲームを使う頻度（経年比較）



注１）「ぜんぜん使わない・使わせない」は、95年、00年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない」を、05年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない・見せない」を合計した数値となっている。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－３－４　パソコンを使う頻度（経年比較）

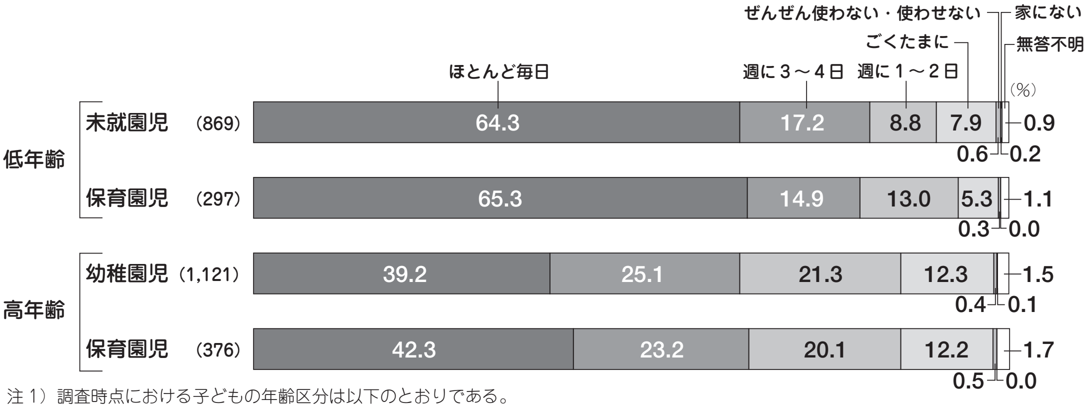


注１）「ぜんぜん使わない・使わせない」は、95年、00年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない」を、05年調査では「ぜんぜんさわらない・使わない」「使わせない・見せない」を合計した数値となっている。
注２）（　）内はサンプル数。

家にあるものについて、子どもの年齢区分別・就園状況別の使用頻度をみてみると、**図1－3－5～7**のようになる。低年齢（1歳6か月～3歳11か月）で使う頻度が高いものは、「絵本」であり、6割強が「ほとんど毎日」使用し、「週に3～4日」「週に1～2日」を合わせると約9割である。高年齢（4歳0か月～6歳11か月）になると使用頻度は減るが、「週に1～2日」以上の割合は8割強になる。

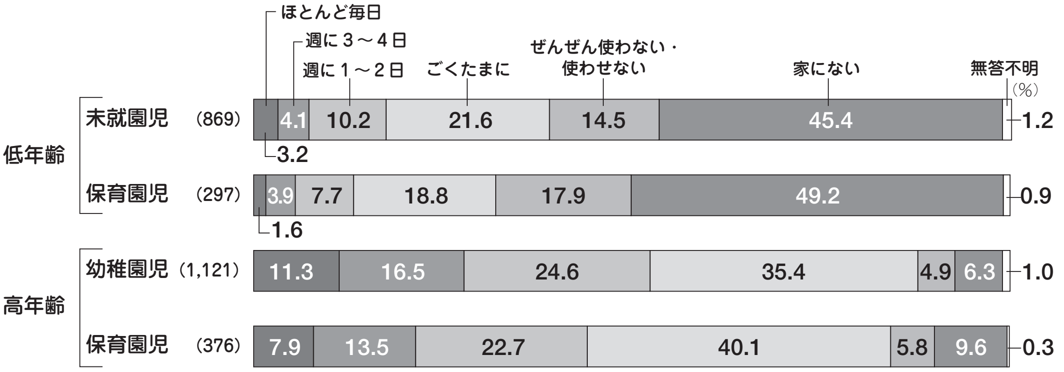
高年齢で使う頻度が高いのは「ワーク」「テレビゲーム」である。「ワーク」は、高年齢で「ほとんど毎日」は1割前後であるが、「週に1～2日」以上の比率では、幼稚園児で52.4%、保育園児で44.1%と約半数の子どもが使用している。低年齢では、「家にない」比率が約半数となっている。「テレビゲーム」では、「テレビゲーム」自体が「家にない」割合が高く、低年齢で5割弱、高年齢で4割弱となっている。いずれの年齢でも使用頻度は高くないが、比較的高いのが高年齢幼稚園児で、「週に1～2日」以上が30.6%である。次いで高年齢保育園児22.9%、低年齢未就園

図1－3－5　絵本を使う頻度（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注1）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注2）（　）内はサンプル数。

図1－3－6　ワークを使う頻度（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



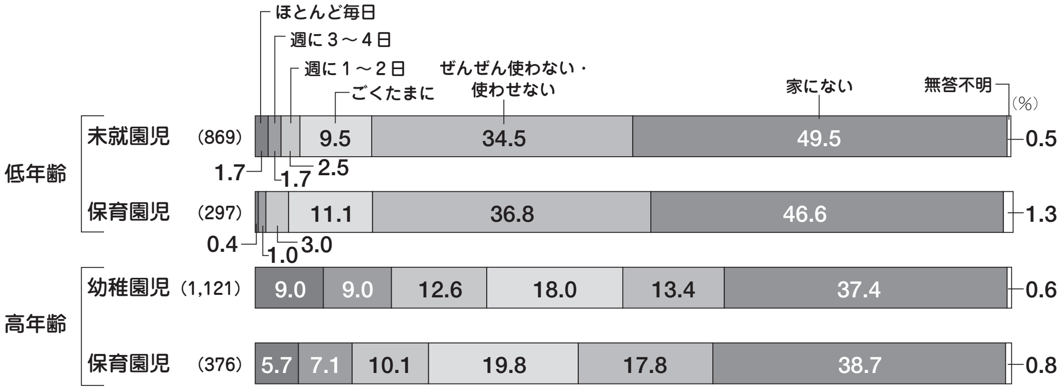
注1）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注2）（　）内はサンプル数。

児5.9%、低年齢保育園児4.4%と続く。高年齢幼稚園児は、約１割が「ほとんど毎日」テレビゲームを使っている。

一緒に使う人で多いのは「母親」

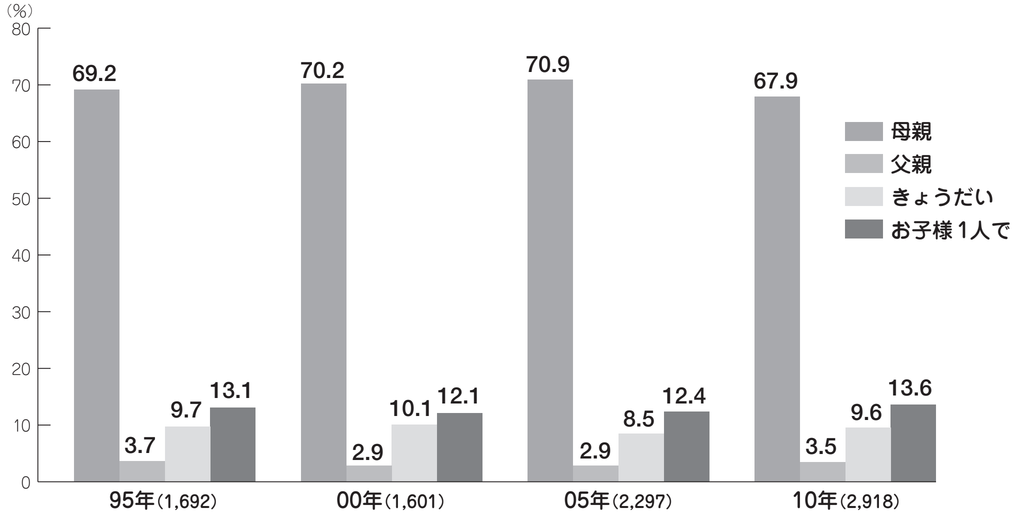
次に、一緒に使う人についてみてみよう（**図１－３－８～10**）。「絵本」は「母親」と一緒に使う割合が一貫して高く、７割程度である（グラフにはないが、「ワーク」でも「母親」がもっとも高い傾向を示し、３～４割である）。「図鑑」では「母親」と一緒に使う比率が15年間で徐々に増加しており、15年間で比較すると13.8ポイントの増加である（95年13.3%、00年20.8%、05年25.3%、10年27.1%）。他方、子ども１人で使う比率もわずかながら増加しており、10年では16.4%となっている。「テレビゲーム」は、「きょうだい」で使う比率がもっとも高く、10年調査では、15年前より5.8ポイント増加している。「父親」と一緒に使う比率は、10年調査では６%程度ではあるが、「きょうだい」に次いで高い傾向であった。

図１－３－７　テレビゲームを使う頻度（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



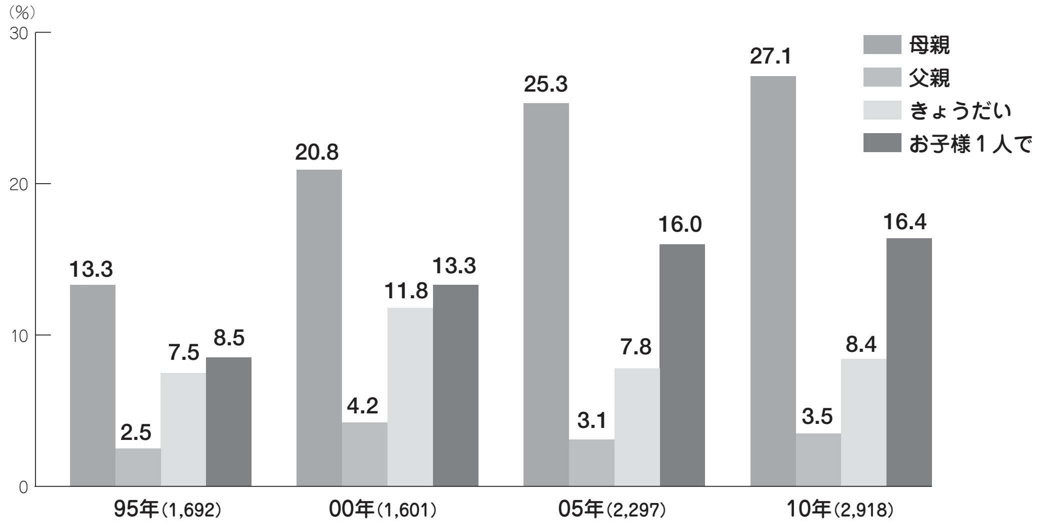
注１）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
低年齢：１歳６か月～３歳11か月の幼児。
高年齢：４歳０か月～６歳11か月の幼児。
注２）（　）内はサンプル数。

図１－３－８　絵本を一緒に使う人（経年比較）



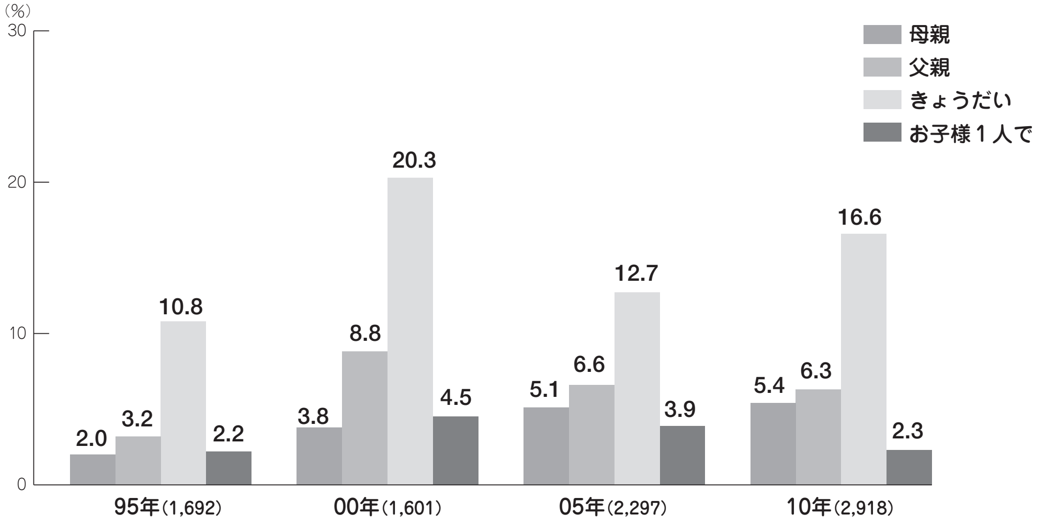
注１）95年、00年、05年調査は、「母親」「父親」「祖母」「祖父」「きょうだい」「友だち」「お子様１人で」「その他」「家にない（使わない・使わせないを含む）」から、10年調査は、「母親」「父親」「きょうだい」「その他の人」「お子様１人で」「使わない・使わせない・家にない」から１つ選択で、「母親」「父親」「きょうだい」「お子様１人で」を選択した%。
注２）（　）内はサンプル数。

図1－3－9　図鑑を一緒に使う人（経年比較）



注1）95年、00年、05年調査は、「母親」「父親」「祖母」「祖父」「きょうだい」「友だち」「お子様1人で」「その他」「家にない（使わない・使わせないを含む）」から、10年調査は、「母親」「父親」「きょうだい」「その他の人」「お子様1人で」「使わない・使わせない・家にない」から1つ選択で、「母親」「父親」「きょうだい」「お子様1人で」を選択した%。
注2）（　）内はサンプル数。

図1－3－10　テレビゲームを一緒に使う人（経年比較）



注1）95年、00年、05年調査は、「母親」「父親」「祖母」「祖父」「きょうだい」「友だち」「お子様1人で」「その他」「家にない（使わない・使わせないを含む）」から、10年調査は、「母親」「父親」「きょうだい」「その他の人」「お子様1人で」「使わない・使わせない・家にない」から1つ選択で、「母親」「父親」「きょうだい」「お子様1人で」を選択した%。
注2）（　）内はサンプル数。

第4節 メディアとのかかわり

テレビを１日２時間以上見ている幼児は約６割、ビデオ・DVD・ハードディスクレコーダーは２割強である。テレビ、ビデオ・DVD・ハードディスクレコーダーともに、低年齢未就園児の視聴時間がもっとも長くなっている。

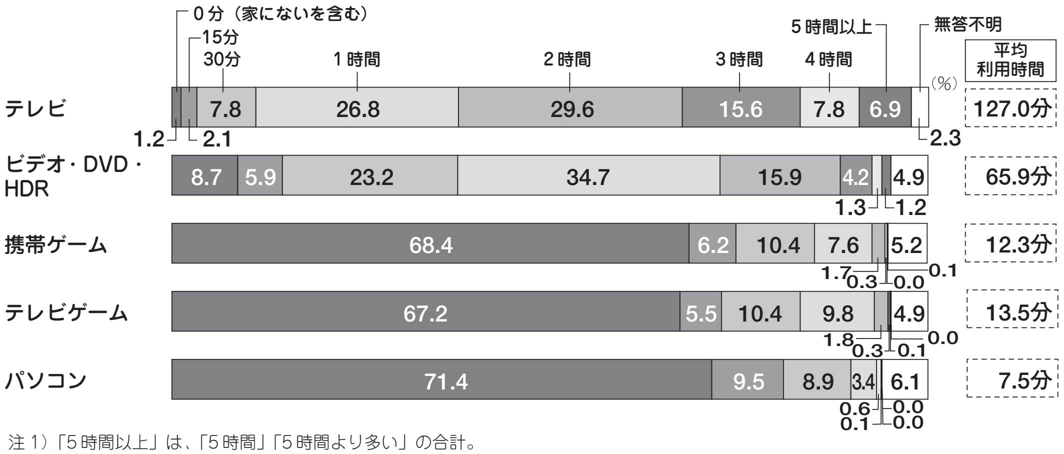
メディアを１日どのくらい使っているか

この節では、テレビ、ビデオ・DVDなどの電子メディアの使用についてみてみたい。10年調査は、05年調査以前の質問形式と異なっているため、ここでは10年調査の数値を中心に分析を行っている。

メディアの１日あたりの視聴時間についてみてみたい（**図１－４－１**）。テレビの１日の視聴時間は、「２時間」がもっとも多く29.6%である。ビデオ・DVD・ハードディスクレコーダー（以下、ビデオ・DVD・HDRと表示）では、「１時間」がもっとも多く、34.7%である。携帯ゲーム、テレビゲーム、パソコンは「０分（家にないを含む）」がいずれも７割前後を占めている。平均時間をみると、テレビが127.0分、ビデオ・DVD・HDRが65.9分となっている。直接の比較は難しいが、05年調査の平均時間（テレビ161分、ビデオ・DVD68分（図表省略））よりもやや減少傾向にあった。

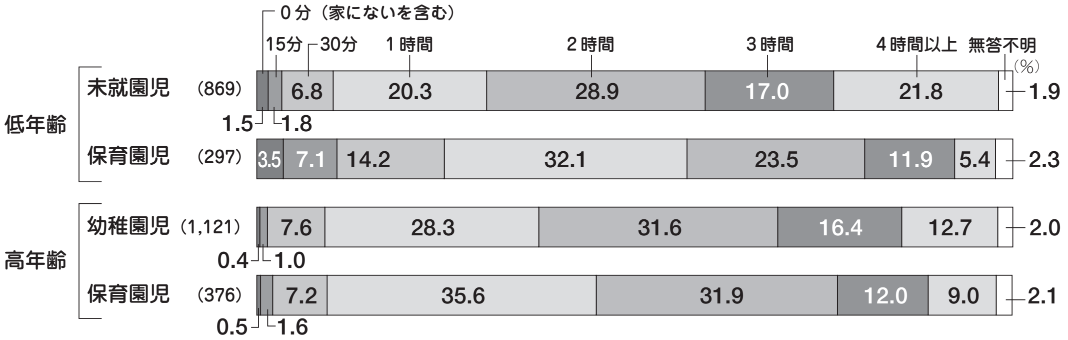
視聴時間は、幼児の年齢や生活スタイルによる影響が大きいと考えられるため、子どもの年齢区分別・就園状況別にみてみよう。テレビでは（**図１－４－２**）、低年齢未就園児がもっとも視聴時間が長く、１日３時間以上視聴する比率が38.8%になる（低年齢保育園児17.3%、高年齢幼稚園児29.1%、高年齢保育園児21.0%）。ビデオ・DVD・HDRでは（**図１－４－３**）、１日３時間以上の視聴はどのグループでも１割程度（または１割以下）であるが、２時間以上の視聴になると、低年齢未就園児27.2%、低年齢保育園児20.8%、高年齢幼稚園児19.8%、高年齢保育園児20.1%であり、低年齢未就園児が３割弱ともっとも多い。保育園児や幼稚園児は、園にいる時間帯以外の朝と降園後に視聴が限られるが、未就園児にはそのような制約がなく視聴時間帯が自由なため長くなっていると考えられる。

図1－4－1　1日どのくらい使っているか（10年）



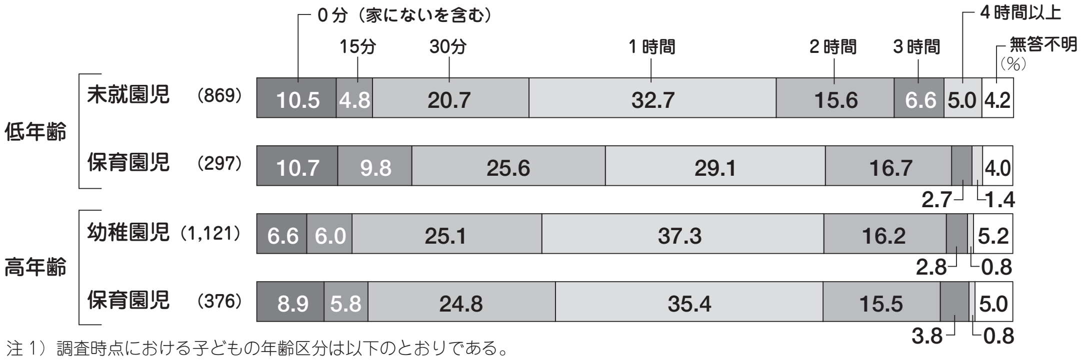
注1）「5時間以上」は、「5時間」「5時間より多い」の合計。
注2）平均利用時間は、「0分（家にないを含む）」を0分、「5時間」を300分、「5時間より多い」を360分のように置き換えて算出した。
　　無答不明の人は、分析から除外している。
注3）サンプル数は2,918人。

図1－4－2　テレビを1日どのくらい使っているか（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注1）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注2）「4時間以上」は、「4時間」「5時間」「5時間より多い」の合計。
注3）（　）内はサンプル数。

図1－4－3　ビデオ・DVD・HDRを1日どのくらい使っているか（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注1）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：1歳6か月～3歳11か月の幼児。
　　高年齢：4歳0か月～6歳11か月の幼児。
注2）「4時間以上」は、「4時間」「5時間」「5時間より多い」の合計。
注3）（　）内はサンプル数。

メディアを１人で操作できる比率

次に、メディアを１人で操作できる比率についてみてみよう（**図１－４－４**）。子どもが１人で操作できる比率は、テレビ71.9％、ビデオ・DVD・HDR41.8％、携帯ゲーム25.4％、テレビゲーム18.8％である。どのメディアも年齢があがると操作できる比率は増加するが、とくに携帯ゲーム、テレビゲームは４歳児以降急速に比率が増加する（携帯ゲーム：４歳児25.0％＜６歳児54.6％、テレビゲーム：４歳児17.3％＜６歳児47.7％）。６歳になると、約半数の子どもが携帯ゲーム、テレビゲームを１人で操作できるようになる。

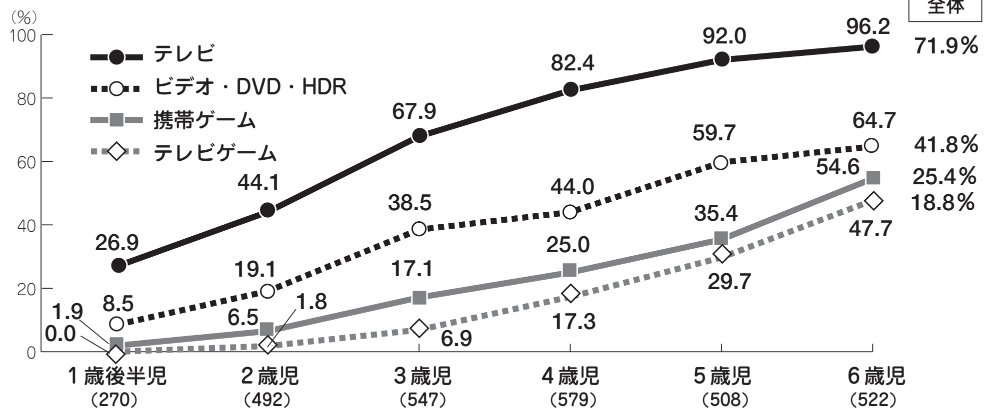
１日のなかで、いつテレビやビデオ・DVD・HDRを見ているか

図１－４－５は、テレビ、ビデオ・DVD・HDRの視聴時間帯である。朝と夕方から夜に２つの山がみられる。テレビは、乳幼児向けの番組の放映時間に集中して山があり、一方、ビデオ・DVD・HDRは、視聴比率の山は低いが広範囲に分布している。

１日の視聴時間帯を子どもの年齢区分別・就園状況別でみてみよう。テレビでは、比較的乳幼児向けの番組の放映時間に視聴が集中しているため、ここではビデオ・DVD・HDRをとりあげている。**図１－４－６**は、低年齢（未就園児、保育園児）のビデオ・DVD・HDR視聴時間帯である。未就園児では、「９時～10時」の視聴比率がもっとも高い（26.0％）。その後も10％前後の視聴が続き、「17時～18時」に夕方の山がある（22.2％）。20時を過ぎると１割弱となる。一方、保育園児の場合、登園前の「７時～８時」に小さな山があるが、降園後の18時～20時の時間帯に視聴が集中する（「18時～19時」39.2％、「19時～20時」36.2％）。その後、「20時～21時」は２割弱が視聴しており、未就園児よりも視聴時間が遅い傾向にある。

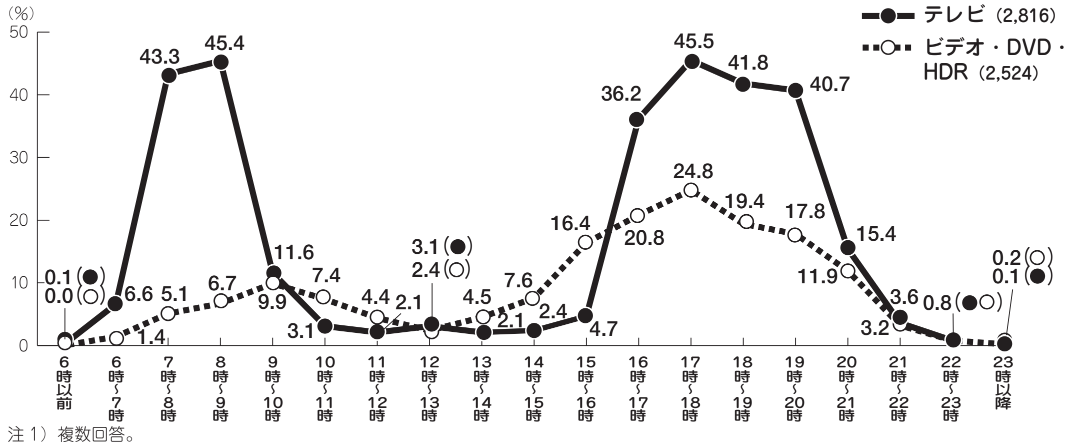
図１－４－７は、高年齢（幼稚園児、保育園児）のビデオ・DVD・HDR視聴時間帯である。幼稚園児では、「７時～８時」に小さな山があるが、15時～18時に視聴が集中する（「15時～16時」25.9％、「16時～17時」34.7％、「17時～18時」30.9％）。20時を過ぎると視聴割合は１割未満に減少する。一方、保育園児では、登園前の山は幼稚園児と同様であるが、降園後は18時～21時に集中し、幼稚園児よりも若干視聴時間が遅くなる（「18時～19時」29.1％、「19時～20時」35.9％、「20時～21時」29.3％）。視聴割合が１割未満になるのは21時以降であり、幼稚園児よりも遅い時間まで視聴している様子がうかがえる。

図１－４－４　メディアを１人で操作できる比率（子どもの年齢別　10年）



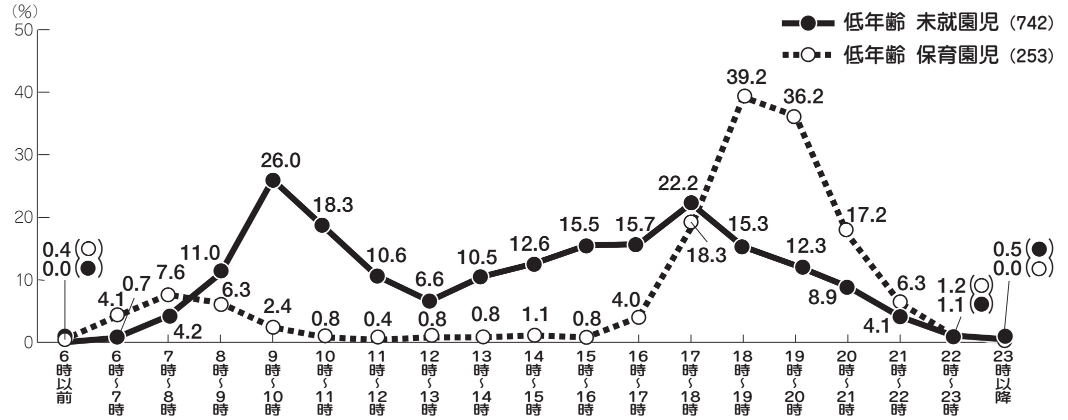
注１）複数回答。
注２）１歳後半児は、１歳６か月～１歳11か月の幼児。
注３）（　）内はサンプル数。

図1－4－5　テレビ、ビデオ・DVD・HDRの1日の視聴時間帯（10年）



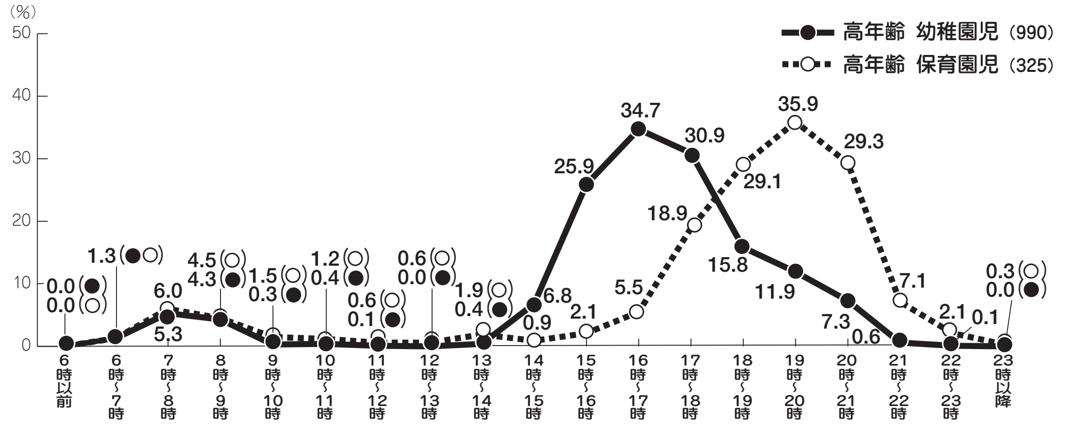
注1）複数回答。
注2）テレビの視聴時間帯は、テレビを見る時間が「15分」〜「5時間より多い」と回答した人のみ回答。
注3）ビデオ・DVD・HDRの視聴時間帯は、ビデオ・DVD・HDRを使う・見る時間が「15分」〜「5時間より多い」と回答した人のみ回答。
注4）（　）内はサンプル数。

図1－4－6　ビデオ・DVD・HDRの1日の視聴時間帯（就園状況別（低年齢）10年）



注1）複数回答。
注2）ビデオ・DVD・HDRを使う・見る時間が「15分」〜「5時間より多い」と回答した人のみ回答。
注3）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　低年齢：1歳6か月〜3歳11か月の幼児。
注4）（　）内はサンプル数。

図1－4－7　ビデオ・DVD・HDRの1日の視聴時間帯（就園状況別（高年齢）10年）



注1）複数回答。
注2）ビデオ・DVD・HDRを使う・見る時間が「15分」〜「5時間より多い」と回答した人のみ回答。
注3）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　高年齢：4歳0か月〜6歳11か月の幼児。
注4）（　）内はサンプル数。

第5節 幼児の遊び

幼児が一緒に遊ぶ相手は、15年間で「母親」が増加する一方、「友だち」や「きょうだい」が減少した。また、「公園の遊具を使った遊び」「つみ木、ブロック」など、よくする遊びに大きな変化はみられない。

平日「母親」と一緒に遊ぶことが増加

1歳6か月～6歳11か月の幼児が一緒に遊ぶ相手について、15年間の変化をみてみよう（**図1－5－1**）。平日、幼稚園・保育園以外で遊ぶときに誰と一緒のことが多いかをたずねたところ、15年間を通して、「友だち」と回答した比率は減少し続けている。この背景には、幼稚園児、保育園児ともに登園のために家の外にいる時間が年々長くなっており、園以外の場所で友だちと遊ぶ時間が減っていることが考えられるだろう。また「きょうだい」と回答した比率をみると、05年から10年の5年間では変わらないものの、15年前の95年調査と比べると8.7ポイント減少している。これには回答者の属性で、95年調査は19.0％であった一人っ子が、05年調査では37.0％、10年調査では32.6％に増加したことが影響しているだろう（p.9 図A－3参照）。一方で、15年間を通して「母親」と回答した比率は95年55.1％、00年68.6％、05年80.9％、10年83.1％と増加し続けている。この15年間は、「友だち」や「きょうだい」と遊ぶ機会が減り、かわりに「母親」と遊ぶ機会が増えたといえるだろう。

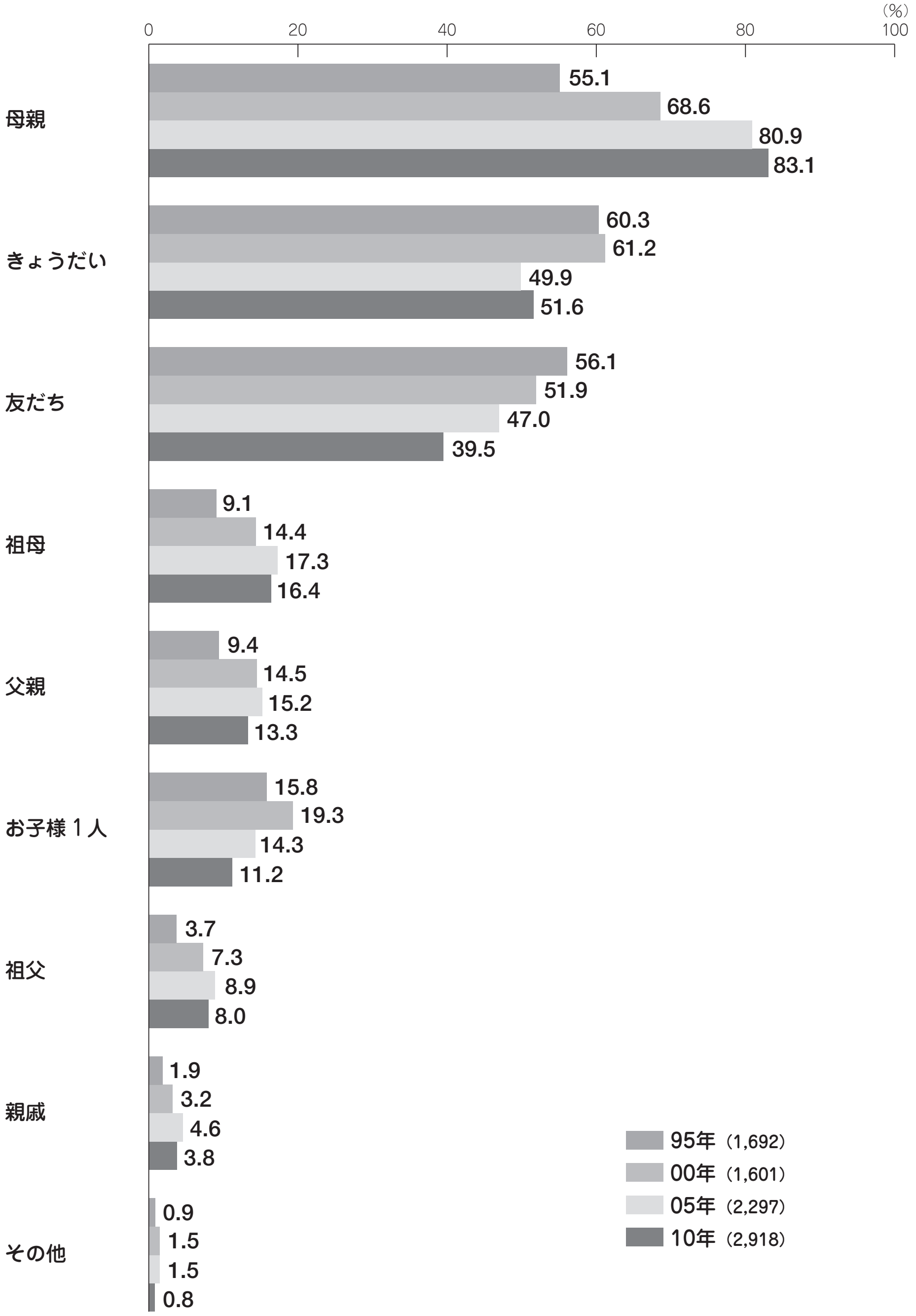
よく遊ぶ相手で就園状況により差があるのは、「友だち」と「父親」

園以外の場で平日一緒に遊ぶ相手について、子どもの年齢区分別・就園状況別で上位5位をあげたのが、**表1－5－1**である。いずれの年齢区分、就園状況においても、「母親」と回答した比率がもっとも高く、「母親」とよく遊ぶことは幼児全体の傾向であるようだ。次に注目したいのは「友だち」と「父親」である。「友だち」と答えた比率をみると、低年齢（1歳6か月～3歳11か月）においては未就園児で第2位40.7％であるのに対し、保育園児では第5位までに入らない7.9％と、32.8ポイントも低かった。高年齢（4歳0か月～6歳11か月）においては幼稚園児で第3位56.3％であるのに対し、保育園児で第5位11.8％と44.5ポイントも低かった。幼稚園児と比べると、平均在園時間の長い保育園児は、園以外の場で「友だち」と遊ぶことが少ないと考えられる。

一方、「父親」と答えた比率をみると、低年齢においては未就園児が第5位11.4％であるのに対し、保育園児は第3位29.7％と18.3ポイント高かった。高年齢においては幼稚園児では第5位までに入らない5.7％に対し、保育園児で第3位27.1％と、21.4ポイントも高かった。このことから、保育園児は未就園児、幼稚園児と比べ、園以外の場で「友だち」と遊ぶ機会は少ないが、「父親」と遊ぶ機会が多いことがわかった。

そこで、父親の帰宅時刻を、子どもの年齢区分別・就園状況別でみてみよう（**図1－5－2**）。「17時台」～「20時台」に帰宅する父親の比率は、低年齢、高年齢ともに未就園児、幼稚園児より保育園児のほうが高かった。幼児の就寝時刻の平均が21時14分（p.26 1章1節参照）であることから考えると、未就園児、幼稚園児より保育園児の父親のほうが、幼児の

図1－5－1　一緒に遊ぶ相手（経年比較）



注１）複数回答。
注２）（　）内はサンプル数。

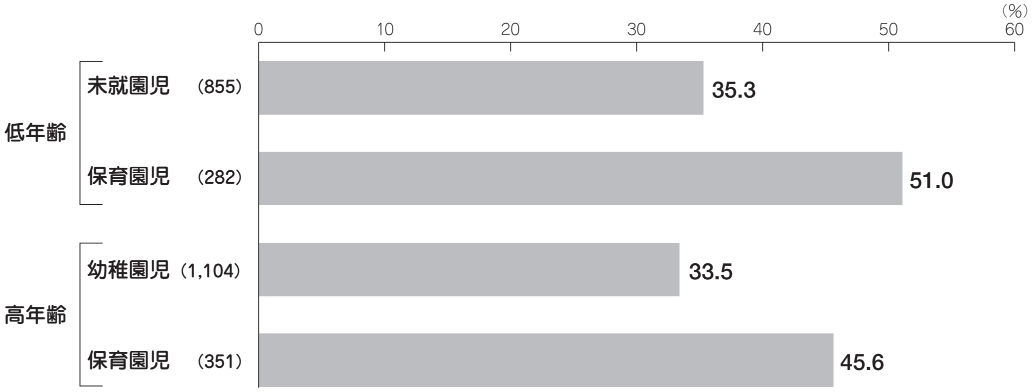
表１−５−１　一緒に遊ぶ相手上位５位（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）

（%）

	未就園児（869）		保育園児（297）	
低年齢	１．母親	95.5	１．母親	86.2
	２．友だち	40.7	２．きょうだい	32.4
	３．きょうだい	31.0	３．父親	29.7
	４．祖母	22.8	４．祖母	20.6
	５．父親	11.4	５．祖父	11.4
	幼稚園児（1,121）		保育園児（376）	
高年齢	１．母親	75.4	１．母親	71.5
	２．きょうだい	68.9	２．きょうだい	63.0
	３．友だち	56.3	３．父親	27.1
	４．お子様１人	12.1	４．祖母	16.1
	５．祖母	10.9	５．友だち	11.8

注１）複数回答。
注２）「その他」を含む９項目の中から上位５項目を選択。
注３）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
低年齢：１歳６か月〜３歳11か月の幼児。
高年齢：４歳０か月〜６歳11か月の幼児。
注４）（　）内はサンプル数。

図１−５−２　17時台〜20時台に帰宅する父親（子どもの年齢区分別・就園状況別　10年）



注１）子どもの父親がいない以外の人の回答のみ分析。
注２）父親が働いている日の平均帰宅時刻を「６〜10時台」、「11〜15時台」、「16時台」〜「１時台」、「２〜５時台」の13項目に分けてたずねた結果の中から、「17時台」〜「20時台」と回答した比率を集計した。
注３）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
低年齢：１歳６か月〜３歳11か月の幼児。
高年齢：４歳０か月〜６歳11か月の幼児。
注４）（　）内はサンプル数。

就寝前に帰宅し、接する時間が長いためであると推察される。

代表的な遊びは15年間で変わっていない

幼児がよくする遊びについて、15年間の変化をみてみよう（**表１－５－２**）。幼児の全体をみると、「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」がもっとも多く、「つみ木、ブロック」「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」「砂場などでのどろんこ遊び」などが比較的多くの幼児に支持されている遊びであることは、15年間を通して変わっていない。さらに高年齢の幼児について、就園状況別によくする遊びをみたところ、いくつかの遊びにおいて差がみられた。屋内での遊びでは、幼稚園児は「ミニカー、プラモデルなど、おもちゃを使った遊び」「携帯ゲーム」「テレビゲーム」と回答した比率が高いのに対し、保育園児は「つみ木、ブロック」「ジグソーパズル」と回答した比率が高かった。屋外での遊びでは、保育園児が「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」「おにごっこ、缶けりなどの遊び」と回答した比率が高かった。

表１－５－２　遊びの種類（経年比較）（就園状況別（高年齢）　10年）

（%）

	95年（1,692）	00年（1,601）	05年（2,297）	10年（2,918）	就園状況別（高年齢）10年 幼稚園児（1,121）		保育園児（376）
公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び	66.0 ①	68.4 ①	76.1 ①	78.1 ①	71.7	＜	78.8
つみ木、ブロック	55.0 ②	55.5 ②	63.1 ②	68.0 ②	56.6	＜	64.3
人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び	51.2 ③	53.5 ③	56.9 ⑤	56.6 ③	52.3		52.4
砂場などでのどろんこ遊び	49.5 ④	52.0 ④	57.6 ③	53.6 ④	47.7		48.6
絵やマンガを描く	45.0	43.6	57.5 ④	53.5 ⑤	61.7		65.6
自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び	46.3 ⑤	51.5 ⑤	53.9	49.5	60.8		56.0
ボールを使った遊び（サッカーや野球など）	35.0	33.2	46.8	46.9	44.8		46.9
ミニカー、プラモデルなど、おもちゃを使った遊び	39.5	43.8	45.5	46.1	38.8	＞	33.0
マンガや本（絵本）を読む	30.4	28.1	44.9	44.5	42.7		46.5
石ころや木の枝など自然のものを使った遊び	26.2	33.8	37.6	40.2	37.5		35.7
ジグソーパズル	21.9	17.9	28.8	32.9	30.6	＜	43.3
カードゲームやトランプなどを使った遊び	19.4	17.8	26.2	25.6	42.1		40.4
おにごっこ、缶けりなどの遊び	13.9	13.6	20.9	23.0	33.1	＜	42.6
なわとび、ゴムとび	14.1	12.6	19.3	21.1	37.6		33.7
*携帯ゲーム	—	—	—	17.8	29.4	＞	22.6
テレビゲーム	24.2	20.2	15.1	17.0	29.3	＞	22.6
その他	7.2	9.2	13.2	10.1	11.6		10.5

注１）複数回答。
注２）各調査年のそれぞれ上位５位までを、○のついた数字で示した。
注３）＜＞は子どもの就園状況別にみたときに、５ポイント以上差がみられた項目。
注４）調査時点における子どもの年齢区分は以下のとおりである。
　　　高年齢：４歳０か月～６歳11か月の幼児。
注５）*は10年調査のみの項目。
注６）（　）内はサンプル数。

第6節 幼児の発達状況

保育園児では、とくに３歳以下の低年齢児で、規則正しく起床・就寝している子どもの比率が減少し、生活リズムが崩れつつある傾向がみられる。また、幼稚園児や未就園児では、オムツをしないで寝る子どもの比率が５年前よりも減少している。

４歳児で「オムツをしないで寝る」は、81.1％から70.9％に減少

幼児の発達状況に関する調査項目が加わったのは05年調査からであるため、ここでは、05年〜10年の５年間における比較結果をまとめる。**表１−６−１**は、生活習慣に関する発達について、子どもの年齢別に05年と比較した結果を示したものである。いずれの項目も、５歳児以上では達成率が80％以上となっており、この点については、ここ５年間で変化はなかった。しかし、５年前には、４歳児でもすべての項目の達成率が80％を超えていたが、今回は「決まった時間に起床・就寝する」「一人で遊んだあとの片付けができる」「オムツをしないで寝る」の３項目で80％を超えていない。とくに「オムツをしないで寝る」については、５年前の４歳児は81.1％が達成していたのに対して今回は70.9％と、５年前よりも10.2ポイントも下がっている。トイレットトレーニングに関する項目をみてみると、「おしっこをする前に知らせる」「自分でパンツを脱いでおしっこをする」では、どの年齢の達成率も５年前と比べて大きな変化はないが、「自分でうんちができる」については、３歳児における達成率が5.5ポイント下がっている。つまり、昼間のおしっこ以外の場面で、オムツに頼っている子どもの年齢が５年前より上昇しているといえ、この背景には、トイレットトレーニングに関する保護者の意識の変化やオムツの機能向上などがあると考えられる。

その他、「コップを手で持って飲む」「家族やまわりの人にあいさつする」は１歳児で、「歯を磨いて、口をすすぐ」は２歳児と３歳児で、「決まった時間に起床・就寝する」は１歳児と３歳児において、５年前より達成率が５ポイント以上減少している。その一方で、「一人で洋服の着脱ができる」「おはしを使って食事をする」については、２歳児における達成率が５ポイント以上上昇している。

保育園児は生活リズムが崩れる傾向に、幼稚園児はオムツに頼る傾向が強まる

つづいて、表１−６−１で５ポイント以上の減少があった項目について、就園状況との関連を分析した結果を示す。各年齢で分析するにあたり、１歳児から３歳児までは幼稚園児がいない、あるいは少ないため、保育園児と未就園児とで比較を、４歳児では幼稚園児と保育園児と未就園児の比較を行った。

まず、**図１−６−１**に示したのは、１歳児における５年前との生活習慣に関する比較結果である。保育園児、未就園児ともに５年前よりも達成率が減少しているが、保育園児ではその傾向がより顕著であり、「コップを手で持って飲む」は12.6ポイント、「家族やまわりの人にあいさつする」は15.7ポイント、「決まった時間に起床・就寝する」は12.9ポイントといずれも10ポイント以上減少している。

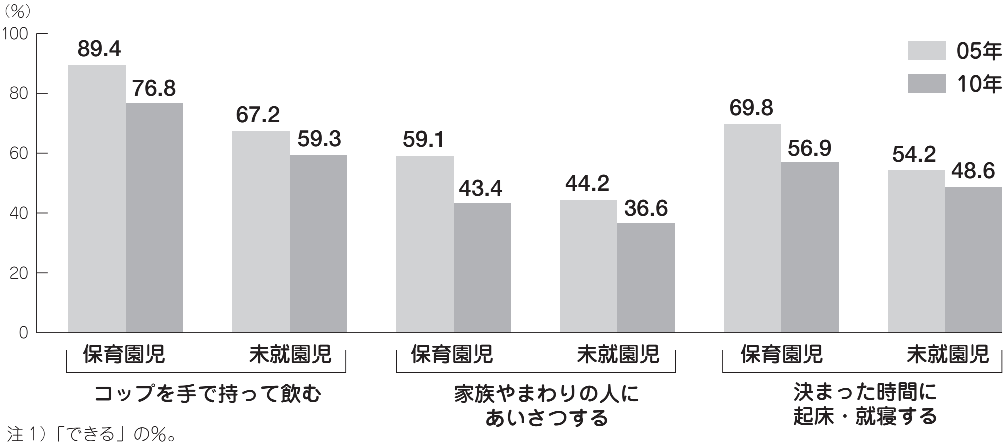
表1－6－1　生活習慣に関する発達（子どもの年齢別　経年比較）

（%）

	1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		6歳児	
	05年 （660）	10年 （552）	05年 （740）	10年 （492）	05年 （340）	10年 （547）	05年 （312）	10年 （579）	05年 （326）	10年 （508）	05年 （276）	10年 （522）
コップを手で持って飲む	**69.5**＞	**63.2**	98.4	96.1	98.2	95.7	98.1	96.0	97.8	96.0	96.0	94.1
スプーンを使って食べる	64.8	60.2	97.4	95.7	98.2	95.7	98.1	96.0	97.8	95.7	95.7	93.9
家族やまわりの人にあいさつする	**45.9**＞	**39.4**	83.5	80.9	92.5	87.7	93.6	90.8	91.8	92.5	91.7	91.2
歯を磨いて、口をすすぐ	14.8	11.8	**73.3**＞	**66.6**	**91.6**＞	**85.7**	95.2	93.3	97.5	94.0	95.3	93.5
おしっこをする前に知らせる	3.3	4.0	25.2	22.6	86.3	82.1	97.8	95.1	96.9	94.8	94.6	93.7
自分でパンツを脱いでおしっこをする	1.2	1.7	17.7	17.4	79.1	77.6	98.1	95.0	97.3	94.8	94.9	94.1
自分でうんちができる	5.6	6.0	24.4	24.2	**78.8**＞	**73.3**	95.2	91.4	96.7	93.4	94.6	93.9
一人で洋服の着脱ができる	1.4	2.2	**18.4**＜	**25.5**	62.0	64.6	92.3	90.6	96.3	94.1	93.8	93.7
おはしを使って食事をする	4.5	3.2	**32.0**＜	**37.7**	62.0	64.8	83.7	81.9	94.2	91.2	93.5	93.5
決まった時間に起床・就寝する	**55.6**＞	**50.3**	62.2	63.5	**72.6**＞	**66.8**	82.4	78.8	85.8	82.7	84.4	81.6
一人で遊んだあとの片付けができる	17.0	14.2	46.8	44.9	64.7	65.4	**85.6**＞	**78.9**	88.1	85.0	85.1	85.3
オムツをしないで寝る	0.6	0.9	6.3	4.9	45.9	43.6	**81.1**＞	**70.9**	84.8	82.2	90.2	88.3

注1）「できる」の%。
注2）満1歳以上の子どもをもつ人のみ回答。
注3）05年、10年調査の結果を比較し5ポイント以上の差がみられたものは太字で示している。
注4）達成率が80%以上の部分に網かけをしてある。
注5）（　）内はサンプル数。
注6）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

図1－6－1　1歳児における生活習慣に関する発達（就園状況別　経年比較）



注1）「できる」の%。
注2）サンプル数は05年（保育園児66人、未就園児567人）、10年（保育園児95人、未就園児421人）。
注3）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

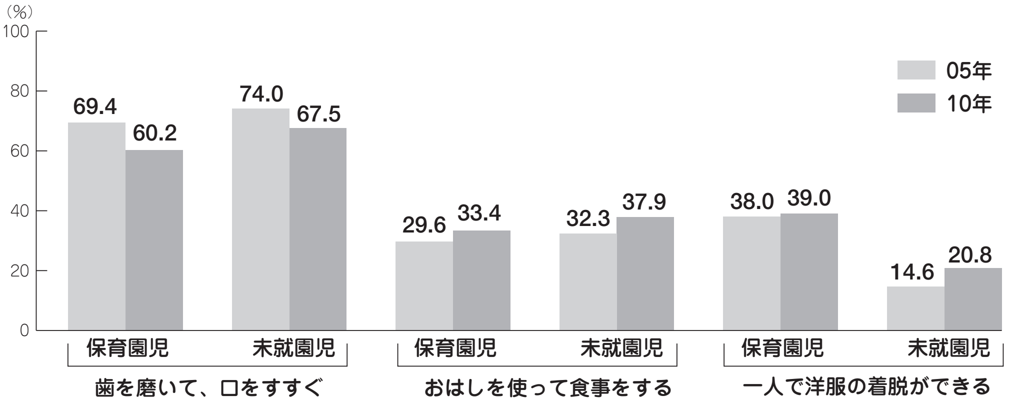
次に、**図１−６−２**は、２歳児における変化を就園状況別にまとめたものである。「歯を磨いて、口をすすぐ」については、保育園児では9.2ポイント、未就園児では6.5ポイント減少と、保育園児の減少幅のほうが若干大きい。「おはしを使って食事をする」については、保育園児で3.8ポイント、未就園児では5.6ポイント上昇している。「一人で洋服の着脱ができる」は、保育園児ではほとんど変化がなかったが、未就園児において6.2ポイントの上昇がみられた。

３歳児における変化を就園状況別にみると（**図１−６−３**）、２歳児と同様、「歯を磨いて、口をすすぐ」に関して、保育園児では５年前から11.7ポイント減少となっており、未就園児よりも達成率が低い。また、「決まった時間に起床・就寝する」についても、１歳児と同じように、保育園児のほうが未就園児よりも減少幅が大きかった。図には示していないが、この項目については２歳児においても同様の傾向がみられた。また、「自分でうんちができる」については、保育園児では大きな変化はなかったが、未就園児は5.4ポイント減少し、この５年間で保育園児よりも達成率が低くなった。

最後に**図１−６−４**では、４歳児における変化を就園状況別にみた。４歳児は、幼稚園児、保育園児、未就園児の３群での比較を行っている。まず、「一人で遊んだあとの片付けができる」に関しては、幼稚園児8.6ポイント、保育園児14.1ポイントの減少に対して、未就園児では10.4ポイントの上昇と、就園しているかどうかで差がみられた。そして、「オムツをしないで寝る」については、幼稚園児で13.0ポイント、保育園児が3.5ポイント、未就園児で7.9ポイントと、すべての群の達成率が低下傾向にあるが、とくに幼稚園児や未就園児で「オムツをしないで寝る」子どもは減っている。

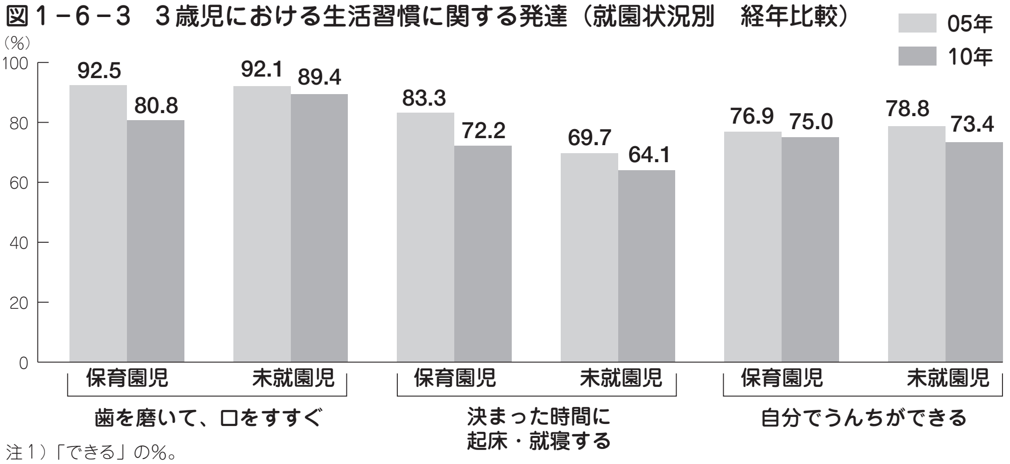
以上のことから、まず、おはしの使用や洋服の着脱など、比較的手先の器用さが求められるような行為については、５年前よりも早い段階でできるようになっているといえそうだ。２歳児における洋服の着脱の達成率は、依然として保育園児のほうが高いものの、家庭でも、より早いうちからできるようにしつける保護者が増えていると予想される。次に、保育園児の生活リズムが少しずつ崩れつつあるのが読み取れる。この５年間で、さらに家を出る時刻が早まり、家に帰る時刻が遅くなっている（p.30 第１章１節参照）ことから考えても、子どもよりも大人中心の生活リズムへの移行が進んでおり、とくに、保育園児をもつ家庭に関してはその傾向が顕著であるのかもしれない。そして、最後に着目すべきは、トイレットトレーニングに関してである。５年前には、幼稚園児・未就園児は、保育園児と比べて「オムツをしないで寝る」ことができる比率が圧倒的に高かった。しかし、この５年間でその差は縮まっている。幼稚園児・未就園児をもつ保護者の場合、保育園児の保護者よりも、家庭において子どものトイレットトレーニングに取り組む（つきあう）時間が確保しやすいと予想される。しかし、そうした時間が取れるかどうかにかかわらず、４歳児に関しては、夜はオムツでも仕方がないと考える保護者が増えているようである。３歳児の未就園児において「自分でうんちができる」子どもの比率が減少していることからも、全体的にオムツに頼る傾向が５年前よりも強まっている様子がうかがえる。

図１－６－２　２歳児における生活習慣に関する発達（就園状況別　経年比較）



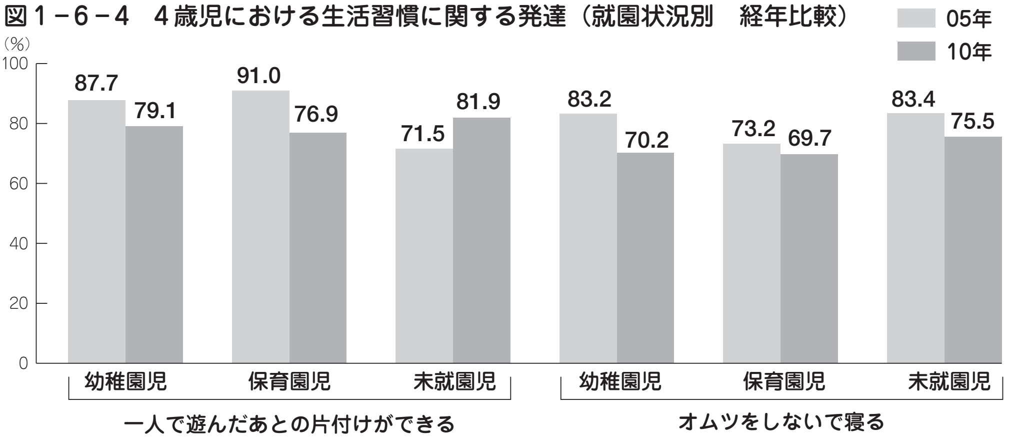
注１）「できる」の%。
注２）サンプル数は05年（保育園児118人、未就園児605人）、10年（保育園児104人、未就園児351人）。
注３）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

図１－６－３　３歳児における生活習慣に関する発達（就園状況別　経年比較）



注１）「できる」の%。
注２）サンプル数は05年（保育園児53人、未就園児258人）、10年（保育園児136人、未就園児330人）。
注３）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

図１－６－４　４歳児における生活習慣に関する発達（就園状況別　経年比較）



注１）「できる」の%。
注２）サンプル数は05年（幼稚園児178人、保育園児67人、未就園児60人）、10年（幼稚園児331人、保育園児152人、未就園児78人）。
注３）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

<年齢別の特徴>

0歳後半児

約8割が未就園児。習い事はほとんどしていない。約6割が「テレビ」を毎日視聴。遊びの種類はまだ少なく、母親、父親と遊ぶことが多い。

◉ 基本的な生活時間

平均起床時刻は7時34分、平均就寝時刻は21時35分、平均昼寝時間は2時間04分である。よって平均夜間睡眠時間は9時間59分、1日の平均合計睡眠時間は12時間03分である。朝食をとる時刻は、「8時頃」(16.3%)、「8時半頃」(13.4%)、「9時頃」(15.1%)、「9時半頃」(9.5%)、「10時以降」(16.5%)とばらつきがみられ、「食べない」(9.5%)も他の年齢と比べてもっとも多い。夕食をとる時刻も「17時半以前」(11.1%)、「18時頃」(23.6%)、「18時半頃」(18.1%)、「19時頃」(15.9%)とばらついており、**まだ離乳食期で食事時間が確立されていない様子がうかがえる**。

◉ 園生活・習い事

就園状況は**未就園児(83.6%)、保育園児(5.6%)、幼稚園児(1.0%)、その他の園・施設(0.6%)**である。そこで園生活の時間については、保育園児のみを取り上げる。行きについては、家を出る平均時刻は8時03分、園に着く平均時刻は8時20分であり、登園にかかる平均時間は17分である。帰りについては、園を出る平均時刻は17時32分、家に帰る平均時刻は17時52分で、降園にかかる平均時間は20分である。**平均在園時間は9時間12分**である。

習い事をしている比率は4.1%とごくわずかで、習い事の種類でもっとも多いのは、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」(2.0%)である。

◉ メディア・遊び

メディアの視聴についてみてみよう。「ほとんど毎日」と答えた比率は、「テレビ」(61.5%)、「ビデオ・DVD・HDR」(11.1%)である。0歳後半児では、**「テレビ」は約6割、「ビデオ・DVD・HDR」は約1割が毎日視聴している**ようだ。一方、「ぜんぜん使わない・使わせない」と答えた比率は、「テレビ」(17.8%)、「ビデオ・DVD・HDR」(57.9%)である。視聴時間についてどちらも「0分」がもっとも多く、「テレビ」(26.0%)、「ビデオ・DVD・HDR」(58.9%)である。

次に遊びについてみてみよう。よくする遊びで上位2つ(「その他」を除く)は、「つみ木、ブロック」(33.7%)、「ミニカー、プラモデルなど、おもちゃを使った遊び」(23.3%)であった。**他の年齢と比べると、いずれの遊びも選択された比率が低く**、かかわる遊びの種類が少ないことがわかる。また、身体や道具を使ったり、ルールや設定のある遊びをする姿はまだみられない年齢である。

一緒に遊ぶ相手の上位2人は、「母親」(94.2%)、「父親」(21.7%)であり、「父親」の比率は、他の年齢と比べるともっとも高かった。0歳後半児の父親がもっとも帰宅時刻が早いことや家族以外とのかかわりがまだ少ない年齢であることが影響しているのだろう。

注1) 0歳後半児は、0歳6か月~0歳11か月の乳児。
注2) 0歳6か月~6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

1歳前半児

約8割が未就園児、約1割が保育園児。約1割が習い事をしている。「テレビ」は約9割が毎日視聴、視聴時間も長くなる。つみ木、ブロックを使った遊びが増える。

基本的な生活時間

平均起床時刻は7時27分、平均就寝時刻は21時20分、平均昼寝時間は1時間56分である。よって平均夜間睡眠時間は10時間07分、1日の平均合計睡眠時間は12時間03分である。朝食をとる時刻は、「7時半頃」～「9時頃」の1時間半に75.2％が集中している。夕食をとる時刻も、「18時頃」～「19時頃」の1時間に81.2％が集中しており、**1歳になると食事時間が確立されてくる様子がわかる**。

園生活・習い事

就園状況は**未就園児（82.6％）、保育園児（13.5％）、幼稚園児（0.7％）、その他の園・施設（0.3％）**である。園生活の時間については、保育園児のみを取り上げる。行きについては、家を出る平均時刻は8時08分、園に着く平均時刻は8時24分であり、登園にかかる平均時間は16分である。帰りについては、園を出る平均時刻は17時19分、家に帰る平均時刻は17時43分で、降園にかかる平均時間は24分である。**平均在園時間は8時間55分**である。

習い事をしている比率は8.8％で、習い事の種類で上位2つは、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（3.2％）、「スイミング」（2.5％）である。

メディア・遊び

メディアの視聴についてみてみよう。「ほとんど毎日」と答えた比率は、「テレビ」（87.6％）、「ビデオ・DVD・HDR」（21.6％）である。0歳後半児と比べて、「ほとんど毎日」視聴している比率が、「テレビ」は26.1ポイント増加した。視聴時間について「テレビ」は「2時間」（25.8％）がもっとも多く、「3時間」以上の視聴は27.6％で、**「テレビ」の視聴頻度、時間ともに増加する年齢**であるといえる。一方、「ビデオ・DVD・HDR」は「30分」以下が68.5％で、長時間の視聴は少ないようだ。

次に遊びについてみてみよう。よくする遊びで上位2つは、「つみ木、ブロック」（70.9％）、「ミニカー、プラモデルなど、おもちゃを使った遊び」（44.3％）であった。**0歳後半児と比べると、「つみ木、ブロック」が37.2ポイント増加**しており、低年齢の幼児にとって代表的なおもちゃである、つみ木、ブロックの活用は、1歳前半で広まることがわかる。

一緒に遊ぶ相手の上位2人は、「母親」（95.0％）、「祖母」（23.0％）である。少数ではあるが、「お子様1人」（10.6％）が1割を超え1人で遊ぶ姿が少しずつみられ始める時期であるといえるだろう。

注1）1歳前半児は、1歳0か月～1歳6か月の幼児。
注2）0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

1歳後半児

約７割が未就園児、約２割が保育園児。約２割が習い事をしている。「テレビ」は約９割が毎日視聴。「ビデオ・DVD・HDR」の視聴頻度が増加。外遊びが活発になる。

◉ 基本的な生活時間

平均起床時刻は７時23分、平均就寝時刻は21時21分、平均昼寝時間は１時間51分である。よって平均夜間睡眠時間は10時間02分、１日の平均合計睡眠時間は11時間53分である。朝食をとる時刻は、「７時頃」～「８時半頃」の１時間半に77.4％が集中しており、**１歳前半児と比べ、朝食の時刻が集中する時間帯が30分前倒しになっている**。これは保育園児の増加が影響していると思われる。夕食をとる時刻は、「18時頃」～「19時頃」の１時間に81.2％が集中しており、１歳前半児と同じ傾向である。

◉ 園生活・習い事

就園状況は**未就園児（69.6％）、保育園児（21.1％）、その他の園・施設（2.6％）、幼稚園児（0.0％）**である。園生活の時間については、保育園児のみを取り上げる。行きについては、家を出る平均時刻は８時09分、園に着く平均時刻は８時21分であり、登園にかかる平均時間は12分である。帰りについては、園を出る平均時刻は17時27分、家に帰る平均時刻は17時46分で、降園にかかる平均時間は19分である。**平均在園時間は９時間06分**で１歳前半児と比べて11分長くなっている。

習い事をしている比率は17.0％で、１歳前半児と比べて8.2ポイント増加している。習い事の種類で上位２つは、「スイミング」（4.5％）、「月１回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（3.3％）である。

◉ メディア・遊び

メディアの視聴についてみてみよう。「ほとんど毎日」と答えた比率は、「テレビ」（89.6％）、「ビデオ・DVD・HDR」（44.4％）である。「ビデオ・DVD・HDR」は、１歳前半児と比べて「ほとんど毎日」視聴している比率が22.8ポイント増加した。視聴時間について「テレビ」は「１時間」（28.5％）がもっとも多く、「３時間」以上の視聴は28.2％であった。一方、**「ビデオ・DVD・HDR」は「30分」以下が50.3％で、「３時間」以上の視聴は6.3％にとどまっており、視聴する頻度は増えるが、長時間ではないようだ。**

次に遊びについてみてみよう。よくする遊びで上位２つは、「つみ木、ブロック」（79.9％）、「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（70.4％）であった。１歳前半児と比べて、**「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（70.4％）が38.1ポイント増、「砂場などでのどろんこ遊び」（49.4％）が26.7ポイント増、「ボールを使った遊び（サッカーや野球など）」（42.3％）が22.0ポイント増で、外遊びをする機会が増え、動きが活発になってくる様子**がうかがえる。

一緒に遊ぶ相手の上位２人は、「母親」（96.7％）、「祖母」（22.9％）である。１歳前半児と比べてあまり変化はみられず、遊びは活発になってくるものの、**まだ大人が遊び相手になることが多い年齢**であることがわかる。

注１）１歳後半児は、１歳６か月～１歳11か月の幼児。
注２）０歳６か月～６歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

2歳児

約7割が未就園児。約4人に1人が習い事をしている。「テレビ」は約9割が、「ビデオ・DVD・HDR」は約5割が毎日視聴。遊びの種類が豊富になり友だちと遊ぶ機会が増加。

基本的な生活時間

平均起床時刻は7時22分、平均就寝時刻は21時25分、平均昼寝時間は1時間38分である。よって平均夜間睡眠時間は9時間57分、1日の平均合計睡眠時間は11時間35分である。朝食をとる時刻は、「7時頃」～「8時半頃」の1時間半に76.5%が集中している。夕食をとる時刻は、「18時頃」～「19時頃」の1時間に76.6%が集中して、朝食、夕食の時刻ともに、**1歳後半児から目立った変化はみられず、決まった時刻に食事をとることが習慣づけられている**ようだ。

園生活・習い事

就園状況は**未就園児（71.4%）、保育園児（21.1%）、その他の園・施設（2.4%）、幼稚園児（1.0%）**である。園生活の時間については、保育園児のみを取り上げる。行きについては、家を出る平均時刻は8時13分、園に着く平均時刻は8時28分であり、登園にかかる平均時間は15分である。帰りについては、園を出る平均時刻は17時32分、家に帰る平均時刻は17時50分で、降園にかかる平均時間は18分である。**平均在園時間は9時間04分**である。

習い事をしている比率は24.6%で、1歳後半児と比べて7.6ポイント増加している。習い事の種類で上位2つは、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（8.1%）、「バレエ・リトミック」（6.9%）である。

メディア・遊び

メディアの視聴についてみてみよう。「ほとんど毎日」と答えた比率は、「テレビ」（90.2%）、「ビデオ・DVD・HDR」（50.1%）である。**「ビデオ・DVD・HDR」は、他の年齢と比べて2歳児の「ほとんど毎日」視聴している比率がもっとも高かった。**視聴時間について「テレビ」は「2時間」（26.1%）がもっとも多く、「3時間」以上の視聴は34.8%であった。一方、「ビデオ・DVD・HDR」は「30分」以下（37.9%）であり、「3時間」以上の視聴は11.0%にとどまった。

次に遊びについてみてみよう。よくする遊びで上位2つは、「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（87.4%）、「つみ木、ブロック」（84.5%）であった。とくに1歳後半児と比べて、「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」（64.7%）が23.5ポイント増、「ジグソーパズル」（29.3%）が22.6ポイント増、「絵やマンガを描く」（46.4%）が20.1ポイント増、「自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び」（32.9%）が15.9ポイント増、「砂場などでのどろんこ遊び」（64.2%）が14.8ポイント増で、**遊びの種類が豊富になる**。設定やルールのある遊びや知能的な遊びができるようになり、外遊びもより充実してくるようだ。

一緒に遊ぶ相手の上位2人は、「母親」（92.4%）、「友だち」（32.2%）である。1歳後半児と比べ、**「友だち」と遊ぶ比率が9.5ポイント増加**しており、同年代の友だちと遊ぶ機会が増える年齢といえるだろう。

注）0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

3歳児

6割が未就園児。4割弱が習い事をしている。よくする遊びは2歳児と同様。「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」などは、3歳児がもっともよくしている。

◉ 基本的な生活時間

平均起床時刻は7時21分、平均就寝時刻は21時18分、平均昼寝時間は1時間03分である。平均夜間睡眠時間は10時間03分、1日の平均合計睡眠時間は11時間06分である。朝食をとる時刻は、「7時頃」～「8時半頃」が80.2%である。また、夕食をとる時刻も、「18時頃」～「19時頃」が78.1%で、いずれも2歳児とほぼ同様の傾向である。

◉ 園生活・習い事

就園状況は、**未就園児（60.2%）、保育園児（25.0%）、幼稚園児（6.2%）、その他の園・施設（3.7%）**で、2歳児より未就園児は約10ポイント減少している。園生活の時間については保育園児のみを取り上げる。行きについては、家を出る平均時刻は8時17分、園に着く平均時刻は8時33分で、登園にかかる平均時間は16分である。帰りについては、園を出る平均時刻は17時25分、家に帰る平均時刻は17時48分で、降園にかかる平均時間は23分。**平均在園時間は8時間52分**である。

習い事をしている比率は37.6%で、2歳児より13.0ポイント増加している。習い事の種類で上位3つは、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（13.4%）、「スイミング」（9.1%）、「英会話などの語学の教室」（8.5%）である。

◉ メディア・遊び

メディアについて、「ほとんど毎日」視聴している比率は、「テレビ」が94.2%、「ビデオ・DVD・HDR」が46.5%である。「テレビ」の視聴時間は、「2時間」が30.7%でもっとも多く、「3時間」以上との回答は34.6%だった。また、「ビデオ・DVD・HDR」の視聴時間は、「1時間」が35.1%でもっとも多く、次いで「30分」（20.0%）、「2時間」（19.3%）と続いた。

次に遊びについてみてみよう。上位を順にあげると、「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（84.4%）、「つみ木、ブロック」（73.5%）、「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」（67.3%）、「砂場などでのどろんこ遊び」（61.1%）、「ミニカー、プラモデルなど、おもちゃを使った遊び」（54.5%）で、**ベスト5は2歳児と同様**である。また、「自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び」は2歳児より19.1ポイント多く52.0%、「ジグソーパズル」も18.3ポイント多く47.6%である。**「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」と「ジグソーパズル」は、他の年齢と比べて3歳児がもっとも遊んでいる比率が高い。**3歳になり、2歳よりもさらに複雑な遊びが増えてくる様子がうかがえる。

一緒に遊ぶ相手は、「母親」が90.6%、「きょうだい」が42.0%、「友だち」が38.4%である。**2歳児よりも「きょうだい」と遊ぶ比率は12.1ポイント増加した。**

注）0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

4歳児

未就園児は約1割となり、朝食時刻のばらつきが減っている。習い事をする幼児は半数弱。「ビデオ・DVD・HDR」を「ほとんど毎日」視聴しているのは3人に1人で、3歳児より減少。

◉ 基本的な生活時間

平均起床時刻は7時10分、平均就寝時刻は21時08分、平均昼寝時間は40分である。平均夜間睡眠時間は10時間02分、1日の平均合計睡眠時間は10時間42分である。朝食をとる時刻は、「7時頃」～「8時頃」が81.6%である。**3歳児に比べて園に通う幼児が増え、朝食時刻のばらつきが減っている。**夕食をとる時刻は「18時頃」～「19時頃」が75.1%である。

◉ 園生活・習い事

就園状況は、**幼稚園児（57.3%）、保育園児（26.2%）、未就園児（13.4%）、その他の園・施設（2.1%）**である。3歳児より未就園児が大幅に減り、幼稚園児が増えている。

幼稚園児と保育園児の園生活の時間をみると、幼稚園児が家を出る平均時刻は8時38分、園に着く平均時刻は9時02分、園を出る平均時刻は14時25分、家に帰る平均時刻は14時58分である。同様に、保育園児は8時12分→8時24分→17時24分→17時44分であった。就園状況により、生活時間は大きく異なる。

習い事をしている比率は45.8%である。習い事の種類で上位3つは、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（17.2%）、「スイミング」（14.7%）、「体操（体操教室）」（8.7%）である。

◉ メディア・遊び

メディアについてみてみよう。「テレビ」を「ほとんど毎日」視聴している比率は90.9%である。一方、**「ビデオ・DVD・HDR」を「ほとんど毎日」視聴している比率は33.6%で、3歳児より12.9ポイント減少した。**4歳児になって、就園率が大きく上昇していることと関係しているだろう。視聴時間については、「テレビ」は「2時間」（30.9%）がもっとも多く、次いで「1時間」（28.8%）だった。「3時間」以上との回答は28.2%だった。「ビデオ・DVD・HDR」は「1時間」（37.5%）、「30分」（25.4%）、「2時間」（17.1%）の順となっている。

次に遊びについてみてみよう。第1位は「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（80.2%）、第2位は「つみ木、ブロック」（67.3%）で3歳児と同様だが、第3位には3歳児の48.5%から12.9ポイント増えて、「絵やマンガを描く」（61.4%）が入った。また、「カードゲームやトランプなどを使った遊び」（31.0%、16.3ポイント増）、「おにごっこ、缶けりなどの遊び」（27.1%、11.3ポイント増）も、3歳児より大きく増加するなど、特定の遊びだけをしているというより、全体に遊びが多様化している様子がうかがえる。

一緒に遊ぶ相手は、「母親」が82.2%、「きょうだい」が61.1%、「友だち」が41.3%である。全体としては「母親」がもっとも多いものの、「きょうだい」や「友だち」の比率が3歳児より高くなっている。

注）0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

5歳児

8割弱が幼稚園児、2割が保育園児。3人に2人が習い事をしている。遊びはさらに多様になり、「携帯ゲーム」や「テレビゲーム」で遊ぶ幼児もおよそ4人に1人。

◉ 基本的な生活時間

平均起床時刻は7時06分、平均就寝時刻は21時05分、平均昼寝時間は24分である。平均夜間睡眠時間は10時間01分、1日の平均合計睡眠時間は10時間25分である。**朝食をとる時刻は、「7時頃」～「8時頃」の合計が86.9%で、なかでも「7時半頃」（42.3%）が多い。**夕食をとる時刻は「18時頃」～「19時頃」が80.8%である。

◉ 園生活・習い事

就園状況は、**幼稚園児（77.9%）、保育園児（19.7%）、その他の園・施設（1.6%）、未就園児（0.8%）**である。4歳児と比べて、さらに幼稚園児の比率が大きく増え、ほとんどすべての幼児が何らかの園に通っている。

幼稚園児と保育園児の園生活の時間をみると、幼稚園児が家を出る平均時刻は8時37分、園に着く平均時刻は9時00分、園を出る平均時刻は14時24分、家に帰る平均時刻は14時51分である。同様に、保育園児は8時15分→8時28分→17時16分→17時33分で、4歳児同様、就園状況によりこれらの時間は異なっている。

習い事をしている比率は67.6%である。習い事の種類で上位3つは、「スイミング」（23.3%）、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」（21.6%）、「体操（体操教室）」（17.8%）である。また、「英会話などの語学の教室」（13.7%）も1割を超える。

◉ メディア・遊び

メディアについて、「テレビ」を「ほとんど毎日」視聴している比率は93.4%。一方、「ビデオ・DVD・HDR」を「ほとんど毎日」視聴している比率は27.9%で、「週に1～2日」（28.3%）という回答のほうが多かった。「テレビ」の視聴時間は、「2時間」（32.6%）がもっとも多く、「1時間」（28.9%）が続く。「3時間」以上は28.3%だった。「ビデオ・DVD・HDR」は「1時間」（39.5%）、「30分」（23.1%）、「2時間」（15.4%）の順で、視聴時間の傾向は4歳児と同じだった。

次に遊びについてみてみよう。第1位は「公園の遊具（すべりだい、ブランコなど）を使った遊び」（73.2%）、第2位は「絵やマンガを描く」（63.0%）、第3位は「自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び」（58.7%）である。また、「なわとび、ゴムとび」は4歳児の16.6%から5歳児では40.7%に、「カードゲームやトランプなどを使った遊び」は31.0%から43.7%となっており、**遊びがさらに多様になっている。「携帯ゲーム」（26.1%）や「テレビゲーム」（25.2%）で遊ぶ幼児もおよそ4人に1人いる。**

一緒に遊ぶ相手は、「母親」が78.4%、「きょうだい」が68.8%、「友だち」が44.2%で、全体としては「母親」がもっとも多いものの、その比率は4歳児より減少している。

注） 0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。

6歳児

ほとんどすべての幼児が園に通っている。およそ4人に3人が習い事をしており、種類も多様になる。一緒に遊ぶ相手の第1位が「母親」以外なのは6歳児だけである。

基本的な生活時間

平均起床時刻は7時04分、平均就寝時刻は21時11分、平均昼寝時間は11分である。平均夜間睡眠時間は9時間53分、1日の平均合計睡眠時間は10時間04分である。朝食をとる時刻は、「7時頃」～「8時頃」の合計が86.0%で、なかでも「7時半頃」(40.1%)が多い。夕食をとる時刻は、「18時頃」～「19時頃」が81.2%である。

園生活・習い事

就園状況は、**幼稚園児(75.7%)、保育園児(23.5%)、その他の園・施設(0.2%)、未就園児(0.2%)**である。

幼稚園児と保育園児の園生活の時間をみると、幼稚園児が家を出る平均時刻は8時39分、園に着く平均時刻は9時03分、園を出る平均時刻は14時29分、家に帰る平均時刻は15時00分である。同様に、保育園児は8時12分→8時26分→17時16分→17時40分であった。生活時間は就園状況により異なる。

習い事をしている比率は76.7%である。習い事の種類で上位3つは、「スイミング」(30.9%)、「月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育」(27.0%)、「体操(体操教室)」(20.7%)である。「楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン)」(18.6%)、「英会話などの語学の教室」(14.8%)、「受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの塾」(12.3%)、「サッカー」(10.5%)も1割を超え、**習い事の種類が多様になる。**

メディア・遊び

メディアについて、「テレビ」を「ほとんど毎日」視聴している比率は93.3%である。一方、「ビデオ・DVD・HDR」を「ほとんど毎日」視聴している比率は24.4%で、「ごくたまに」(27.8%)という回答のほうが多い。「週に1～2日」(24.3%)という回答も多い。**6歳児になると、ビデオなどをみる頻度は減少する。**視聴時間について、「テレビ」は「2時間」(30.8%)と「1時間」(30.7%)がほぼ同率であり、「3時間」以上との回答は26.9%だった。「ビデオ・DVD・HDR」は「1時間」(33.9%)、「30分」(25.8%)、「2時間」(15.3%)の順である。

次に遊びについてみてみよう。第1位は「公園の遊具(すべりだい、ブランコなど)を使った遊び」(69.0%)、第2位は「自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び」(62.6%)、第3位は「絵やマンガを描く」(61.7%)である。5歳児から10ポイント以上の増減があったものをあげると、「砂場などでのどろんこ遊び」が14.0ポイント減の36.3%。一方、「携帯ゲーム」は12.1ポイント増の38.2%、「テレビゲーム」は12.1ポイント増の37.3%となっている。

一緒に遊ぶ相手は「きょうだい」が72.2%、「母親」が65.0%、「友だち」が50.4%。**「母親」以外が一緒に遊ぶ相手の第1位となっているのは6歳児だけ**である。

注) 0歳6か月～6歳11か月の年齢層で分析する際のウェイトを用いて集計した。